

FEATHER2006
リファレンスマニュアル

canopus

F243606141

ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) Microsoft、Windows、Windows Media、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト・コーポレーションの商標または登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
- (9) iEPGおよびiEPGロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- (10) DivXおよびDivX Proロゴは、アメリカ合衆国・その他諸国におけるDivXNetworks社の商標または登録商標です。
- (11) MediaArtistは松下電気産業株式会社の登録商標です。

表記について

- 本書はアプリケーションの設定方法について説明しています。
セットアップ手順は、別冊のセットアップマニュアルをご参照ください。
- 本書はFEATHER2006を使用する製品の共通マニュアルとなっています。製品によっては、仕様により搭載されていない機能があります。
- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。

- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows®XP、Windows Media VideoをWindows XP、WMVと表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。

警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでにされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。



個人情報の取扱いについて

当社では、原則として①ご記入いただいたお客様の個人情報
は下記の目的以外では使用せず、②下記以外の目的で使用する場合は事前に当該サービス上にてお知らせいたします。当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはありません。

- (1) ご利用の当社製品のサポートの実施
 - (2) 当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施
- * 調査結果を当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがありますが、匿名性を確保した状態で提供いたします。
- (3) 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認
 - (4) ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供
 - (5) 懸賞企画等で当選された方お客様への賞品の発送
- * お客様の個人情報の取扱いに関するご意見、お問合せは、<http://www.canopus.co.jp/info/>までご連絡ください。



サポートについて

- ご使用方法や、このマニュアルについて不明な点、疑問点などがございましたらカノープス株式会社テクニカルサポートまでお問合せください。

■ お問合せの前には必ず以下の内容をご準備の上、お問合せください

- (1) ご使用になっておられるパソコンの名称型番
 - ・メーカー製の場合→メーカー名と型番
 - ・自作、オーダーメイドの場合→マザーボード型番、CPU、チップセット、サウンドボード、グラフィックボード
- (2) オペレーティングシステム（Windowsなど）のバージョン
- (3) ハードディスクの容量、メモリの容量
- (4) 他に取り付けられている拡張ボードのメーカー名と製品名
- (5) 周辺機器があればそのメーカー名と製品名
- (6) 他に併用している当社製品があれば製品名とバージョン番号

■ Webからのお問合せ

- ・ よくあるお問合せ (<http://www.canopus.co.jp/tech/faq/faq.htm>) をまずご確認ください。
- ・ よくあるお問合せで対応策が見つからなかった場合、ご購入後のお問合せ (<http://www.canopus.co.jp/tech/contact2.htm>) をご覧ください。

■ お電話でのお問合せ

テクニカルサポート

TEL. 078-992-9915

(10:00～12:00、13:00～17:00)

※土、日、祝日および当社指定休日を除く

FEATHER2006

リファレンスマニュアル

June 14, 2006

Copyright © 2005 -2006 Canopus Co., Ltd.

All rights reserved.

もくじ

第1章 準備

1-1	チャンネルを設定(登録)する	2
1-2	Windowsのログオンパスワードを設定する	6
1-3	CiRAgentの設定	8
	設定画面について	10
	■[サーバ接続設定] タブ	10
	■[デバイス設定] タブ	11
	■[設定] 画面	12
	■[録画設定] 画面	13
	■[オプション] 画面	14

第2章 ライブラリの設定

2-1	MEDIA LIBRARYを使いこなす	16
	MEDIA LIBRARYを操作する	16
	■ファイルを探す	16
	■ファイルを追加登録する	17
	■ファイルを分類する	18
	■ファイルを削除する	19
	■カテゴリを削除する	20
	■監視フォルダを追加する	21
	MEDIA LIBRARYについて	22
	■[MEDIA LIBRARY] 画面	22
	■ファイル上での右クリックメニュー	24
	■ルートカテゴリにあるカテゴリ上での右クリックメニュー	25
	■監視フォルダ上での右クリックメニュー	25

2-2	メディア管理ツールを使いこなす	26
	メディア管理ツールを操作する	26
	■ファイルを追加登録する	26
	■ファイルを削除する	27
	■ファイル情報を変更する	28
	■ファイルを検索・追加する	29
	メディア管理ツールについて	30
	■[Photo/Musicメディア管理ツール]画面	30
	■[画像のプロパティ]画面	31
	■[曲のプロパティ]画面	31
	■ファイル上での右クリックメニュー	32
	■[アルバム]カテゴリ(Photo)上での右クリックメニュー	32
	■[アルバム](Photo)上での右クリックメニュー	32
	■[プレイリスト]カテゴリ上での右クリックメニュー	32
	■[プレイリスト]上での右クリックメニュー	32

第3章 MPEGマッハサーチについて

3-1	MPEG情報ファイルとマッハサーチ	34
	MPEG情報ファイルを生成する	34
	MPEG Information File Creatorについて	36
	■[MPEG Information File Creator]画面	36

第4章 FEATHER2006の設定

4-1	メニューリストから操作をする	38
	視聴に関する操作をする	39
	画質に関する操作をする	40
	画面に関する操作をする	41
	設定を変更する	42
	そのほかの項目について	42
4-2	[FEATHER設定]画面から設定をする	43
	[FEATHER設定]画面について	43
	設定項目について	45

画質の設定をする	46
■ [ビデオ入力設定]	46
■ [Sビデオ入力設定]	48
■ [コンポーネント入力設定]	50
■ [チューナー入力設定]	51
■ [PC画面出力]	53
■ [ファイル再生]	55
■ [表示位置]	56
保存先の設定をする	57
■ [保存先]	57
タイムシフトの設定をする	58
■ [タイムシフト]	58
エンコードの設定をする	60
■ [録画]	60
■ [HW-MPEG設定 (MTVX-WHF、MTVX-SHF)]	61
■ [HW-MPEG設定 (MTVX、MTVX-HF、DNT-888L)]	63
■ [HW-MPEG設定 (MTVX-USB、DVR-777U、MTVX-HFUSB)]	65
■ [HW-MPEG設定 (MTVX2005)]	67
■ [SWエンコード設定]	69
■ [SW-MPEG設定]	73
■ [ビデオ] - SW-MPEG設定の詳細 -	75
■ [オーディオ] - SW-MPEG設定の詳細 -	76
■ [ファイル拡張子]	77
DVD再生の設定をする	78
■ [DVD再生]	78
音声の設定をする	79
■ [音声設定]	79
■ [音量/ミュート]	80
その他の設定について	82
■ [ファイル関連付け]	82
■ [Photo印刷設定]	83
■ [ネットワーク設定]	84
■ [その他]	85
■ [その他2]	86

第5章 録画予約の確認と修正

5-1	録画予約の確認と修正	88
	録画予約を確認・修正する	88
	[予約一覧]画面から録画予約する	89
5-2	録画予約に関連する画面	91
	[予約一覧]画面	91
	FEATHER オプション設定画面	92
	■[予約録画]タブ	92
	■[番組情報]タブ	93
	■[録画デバイス]タブ	93
	■[優先順]タブ	94
	■[アカウント情報]タブ	94
	[録画スケジュール]画面	95
	■[予約設定]タブ	95
	■[録画設定]タブ	96
	■[その他]タブ	97

第6章 付録

6-1	各設定項目をもっと詳しく	100
	■ビデオ	100
	■オーディオ	103
6-2	索引	105

第1章

準備

この章では、FEATHER2006 と当社製テレビチューナー製品を合わせてお使いの場合の準備(設定)について説明します。

リモート録画予約(携帯電話などからの録画予約)機能をお使いにならない場合は、CiRAgentの設定は必要ありません。

※ 本書に記載されている機能の中には、お使いの製品の機能(仕様)差によってオプションが必要な場合があります。

1-1 チャンネルを設定（登録）する

ここではFEATHER2006のチャンネル設定について説明します。
FEATHER2006の初回起動時に地域別のプリセットを利用するか、オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。

1

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]へ進み[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。

→ FEATHER2006が起動します。



2

TVモードを選択します。



3

右クリックメニューから[設定]→[詳細設定を開く]を選択します。

→ [FEATHER設定]画面が表示されます。



4

[TVチャンネル登録]をクリックします。



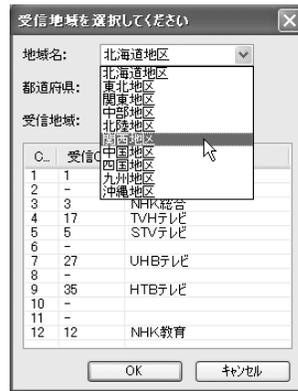
5

[地域設定による登録]ボタンをクリックします。



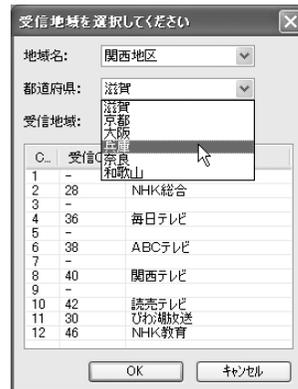
6

[地域名]から本製品を使用している地域名を選択します。



7

[都道府県]から都道府県名を選択します。

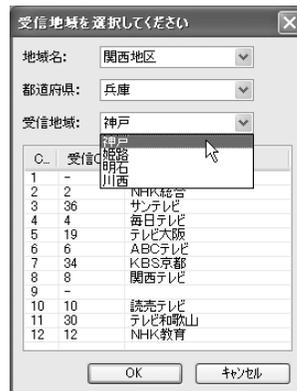


8

[受信地域]から受信地域を選択します。

→ [OK]ボタンをクリックし、受信地域の選択画面を閉じます。

もし、お住まいの地域名が見つからない場合、受信地域番組リストの内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容の地域を選択してください。リストの内容は、後から修正できます。



9

放送局名を確認、および設定してください。

※ 受信チャンネル番号は、放送局からの電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで、新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号です。1~12(VHF)と、13~62(UHF)があります。



受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端に登録マーク(☑)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名や登録マーク(☑)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、オーバーレイウィンドウにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、登録と書かれたチェックボックスをクリックして登録マーク(☑)を表示させ、放送局名欄をクリックして放送局名を入力してください。

10

プリセットを確認および設定してください。

→ チャンネルプロパティ一覧のボタンに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てることで選局が簡単に行えます。



11

[数字ボタンの動作]の[ボタンに登録されたチャンネル]を選択します。
[OK]ボタンを押すと設定を完了し、画面が閉じます。



[ボタン登録されたチャンネル]とは、操作パネルの1～0のボタンに任意に割り当てられたチャンネルを選択することをいいます。

[チャンネル数字入力]とは、放送局が使用しているチャンネルを選択することをいいます。

ケーブルテレビは、ケーブルテレビ局がチャンネルを割り当てています。



[自動受信による登録]ボタンをクリックすると、すべてのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、登録マーク(✔)が付きます。



1-2 Windowsのログオンパスワードを設定する

テレビ番組の予約録画を行う場合は、Windowsのログオンパスワードの設定が必要です（ログオンパスワードが未設定の場合のみ）。

1

[スタート]メニューから [コントロールパネル] へ進み、 [ユーザーアカウント] をクリックします。
→ [ユーザーアカウント]画面が表示されます。



2

ログオンパスワードを設定するユーザーアカウントをクリックします。



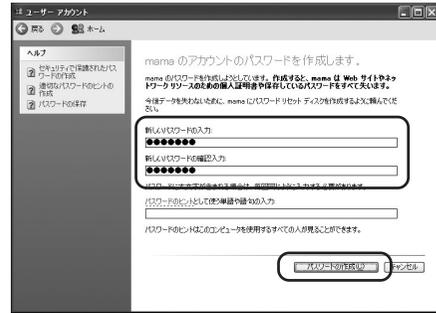
3

[パスワードを作成する]をクリックします。



4

画面の指示にしたがってパスワードを入力します。入力後は、[パスワードの作成]ボタンをクリックします。



5

[ユーザーアカウント]画面右上の [X] ボタンをクリックし、設定を終了します。



1-3 CiRAgentの設定

ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」を利用するための設定を例に説明します。

CiRAgentで「テレビ王国」を利用するには、次の設定が必要です。CiRAgentの設定以外は「テレビ王国」での設定となりますので、詳しくは「テレビ王国」のヘルプを参照してください。

- ・「テレビ王国」メンバーサービスの登録
- ・iCommand用結果通知メールアドレス登録
- ・CiRAgentのチャンネル設定、およびiCommand接続アカウント設定



CiRAgentの設定変更には、管理者権限があるアカウントでログオンする必要があります。

1

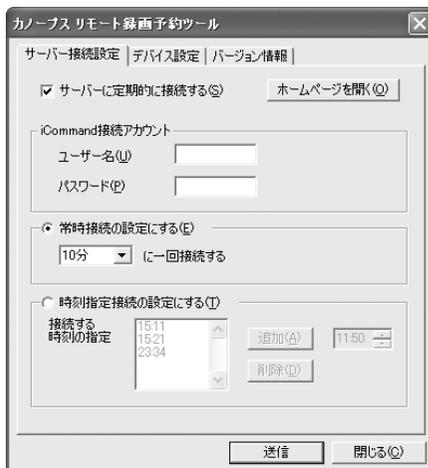
【スタート】メニューから【すべてのプログラム】へ進み、【Canopus CiRAgent】から【Canopus CiRAgent 設定】を選択します。



2

【サーバ接続設定】タブをクリックし、以下の設定を行います。

- ①【サーバーに定期的に接続する】にチェックを入れます。
- ②【iCommand接続アカウント】に「テレビ王国」で登録したユーザー名（メンバーID）、パスワードを入力します。
- ③「テレビ王国」サーバへ常時接続するか、時刻を指定して接続するかを選択します。



3

[デバイス設定] タブをクリックし、[デバイス設定] ボタンをクリックします。



4

[FEATHERから取得] ボタンをクリックします。

→ FEATHER2006で設定した受信地域が CiRAgentにも設定されます。



5

[OK]ボタンをクリックしたあと、[設定]画面の[OK]ボタンをクリックします。



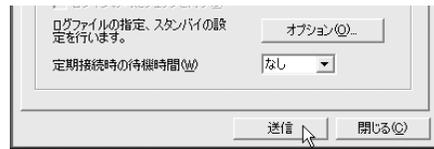
6

[はい] ボタンをクリックします。



7

「送信」ボタンをクリックし、設定を終了します。

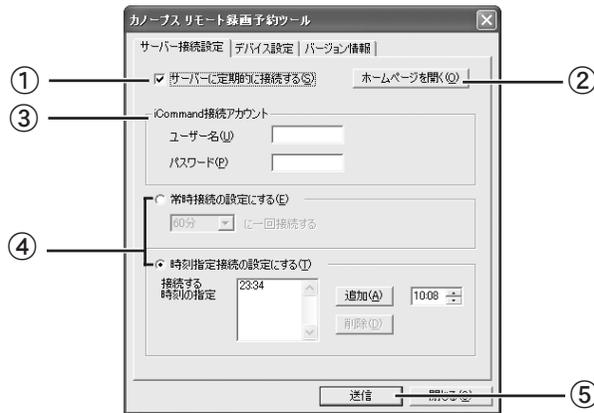


「テレビ王国」のユーザー名やパスワードを変更した場合、必ず CiRAgent の iCommand 接続アカウントを再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。

設定画面について

CiRAgent の設定画面の項目について説明します。

■ [サーバ接続設定]タブ



①[サーバに定期的に接続する]

チェックを入れると「テレビ王国」のサーバに定期的に接続します。接続する時間は、④で設定します。

②[ホームページを開く]

「テレビ王国」のトップページを表示します。

③[iCommand接続アカウント]

「テレビ王国」で登録したメンバー ID とパスワードを入力します。

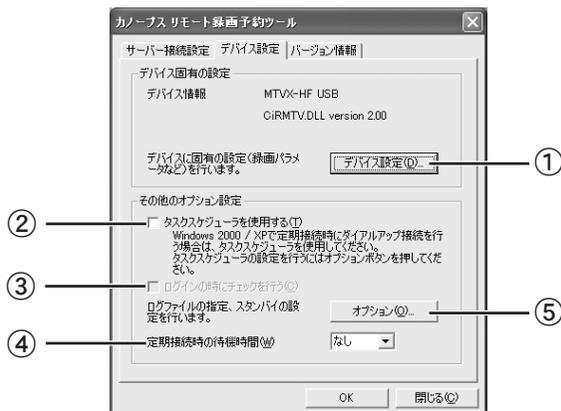
④[常時接続の設定にする]/[時刻指定接続の設定にする]

「テレビ王国」サーバへの接続方法を設定します。常時接続を選ぶと接続間隔を設定できます。時刻指定接続を選ぶと、具体的な接続時間を指定できます(ただし、0分台には「0」を指定できません)。

⑤[送信]ボタン

設定内容を「テレビ王国」のサーバへ送信します。

■ [デバイス設定]タブ



①[デバイス設定]ボタン

録画保存先や録画条件などを設定する画面を表示します(12ページ参照)。

②[タスクスケジューラを使用する]

ダイヤルアップ接続で「テレビ王国」に接続する場合は、チェックを入れてください。

③[ログインの時にチェックを行う]

タスクスケジューラを使用する場合、Windowsログイン時に「テレビ王国」へ接続します。

チェックを入れないと、再起動時に「テレビ王国」から入手できる情報が次回接続時まで更新されません。

なおタスクスケジューラを使用しない場合は、サービス起動後数分以内に自動的に接続します。

④[定期接続時の待機時間]

定期接続時間までの待機時間を設定します。

⑤[オプション]ボタン

ログファイルの保存先やサーバ接続後のパソコンの状態などを設定する画面を表示します(14ページ参照)。



●タスクスケジューラを使用する場合

[オプション]ボタン→[タスクスケジューラの設定]タブの順にクリックし、設定用のユーザー名とパスワードを入力してください。

■ [設定]画面

[デバイス設定] タブから [デバイス設定] ボタンをクリックすると表示されます。



①[設定]ボタン

録画品質の設定画面を表示します(13ページ参照)。

②[録画ファイル保存先]

録画したファイルの保存先を指定します。直接入力するか[...]ボタンをクリックしてフォルダを選択します。

③[録画条件]

チェックを入れると、定期的な録画予約を削除可能にします。

④[地域指定]

録画地域を指定します。通常は、FEATHER2006でチャンネル設定した後 [FEATHERから取得]ボタンをクリックします。

任意で地域を指定する場合は、[地域の選択]ボタンをクリックし、地域を選択してください。

■ [録画設定]画面

[デバイス設定] タブから [デバイス設定] ボタン→[設定] ボタンをクリックすると表示されます。



①[録画デバイス]

当社チューナー製品を複数お使いの場合は、録画に使用するチューナー製品を選択します。

②[録画形式]

録画ファイル形式を選択します。お使いの環境によって選択できない形式があります。

③録画品質

録画映像の品質を選択します。[詳細設定] ボタンをクリックすると、さらに詳細に設定できます。

④[録画中に映像を表示する]

録画中に映像表示する場合は、チェックを入れます。

⑤[録画後の電源状態]

録画完了後のパソコンの状態を選択します。

⑥[ファイルの保存期間設定]

録画したファイルを、一定期間経過後自動的に削除する場合は、保存期間を選択します。
自動的に削除しない場合は、「自動削除しない」を選択してください。

⑦[音声多重]

音声多重方式を[主音声(自動ステレオ)]、[副音声]、[主+副]、[モノラル]から選択します。

⑧[録画マージン]

録画開始時、および録画終了時のマージン時間を設定します。

■ [オプション]画面

[デバイス設定] タブから [オプション] ボタンをクリックすると表示されます。



① [ログファイル]

必要に応じてログファイルの保存先を変更します。ログファイルを表示するには [ログファイルの表示] ボタンを、内容をクリアするには [ログファイルのクリア] ボタンをクリックします。

② [サーバー接続後の処理]

「テレビ王国」のサーバー接続後のパソコンの状態を設定する場合は、チェックを入れ、待機時間を設定します。

③ [定期接続時に時間調整を行う]

「テレビ王国」に接続したときにパソコン内蔵時計を調整する場合は、チェックを入れ、時間調整用のSNTPサーバーのアドレスを入力します。

第2章

ライブラリの設定

この章では、MEDIA LIBRARYとPhoto/Musicメディア管理ツールの設定と操作について説明します。

FEATHER2006では、録画ファイルの管理はMEDIA LIBRARY、静止画ファイルと音楽ファイルの管理はPhoto/Musicメディア管理ツールで行っています。

2-1 MEDIA LIBRARY を使いこなす

MEDIA LIBRARY を操作する

FEATHER2006 で録画した映像は、マイビデオに保存されると同時に、自動的に MEDIA LIBRARY に登録されます。MEDIA LIBRARY 上でファイルをカテゴリ別で分類しておけば、わざわざ探す手間がはぶけ、すぐに映像を見ることができます。

また、お気に入りのファイルを追加登録できますので、パソコンに取り込んだ映像や静止画像も一緒に整理できます。

■ファイルを探す

パソコンに取り込んだビデオ映像などのファイルを検索します。

1

右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY]を選びます。



2

ファイルを検索するためのキーワードなどを入力し、[検索]ボタンをクリックします。



→ 検索条件に合致したファイルが[検索結果]フォルダに表示されます。



■ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだビデオ映像などのファイルをMEDIA LIBRARYに登録します。

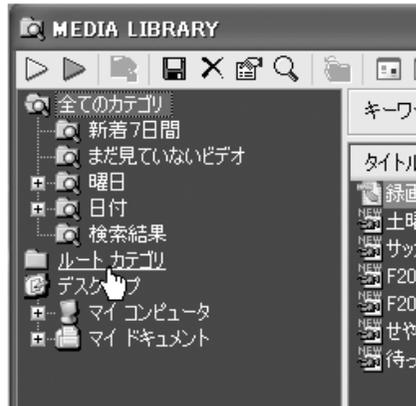
1

右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY]を選びます。



2

カテゴリツリーの[ルートカテゴリ]をクリックします。



3

[ファイルの追加]ボタンをクリックします。



4

追加登録するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがMEDIA LIBRARYに登録されます。追加したファイルのアイコンには「New」が表示されています。



分類するルートカテゴリのカテゴリ(フォルダ)を選んでから追加登録すると、そのカテゴリ内にファイルを登録できます。

■ ファイルを分類する

ルートカテゴリに新しくカテゴリを作成し、そのカテゴリにファイルを移動させます。

1

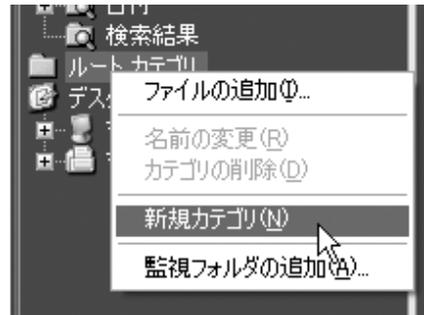
右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY]を選びます。



2

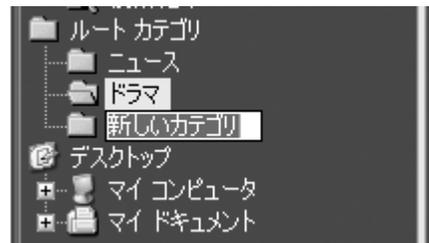
ルートカテゴリ上で右クリックし、[新規カテゴリ]を選びます。

→ 選んだカテゴリ内に新しいカテゴリ (フォルダ) が作成されます。



3

カテゴリにお好みの名前を付けます。



4

登録するファイルを新しいカテゴリ上にドラッグします。

→ ファイルが新しいカテゴリ内に移動します。



■ファイルを削除する

1

右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY]を選びます。



2

削除するファイルを選び、[削除]ボタンをクリックします。



3

オプションを選択し、[削除する]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルが削除されます。

[ファイルを残す]:

MEDIA LIBRARYへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]:

MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

[ファイルをゴミ箱へ移動する]:

MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動します。



■カテゴリを削除する

ルートカテゴリ内にあるカテゴリを削除します。



[ルートカテゴリ]内のカテゴリ以外は削除できません。



カテゴリ内にファイルが登録されているときは、削除できません。

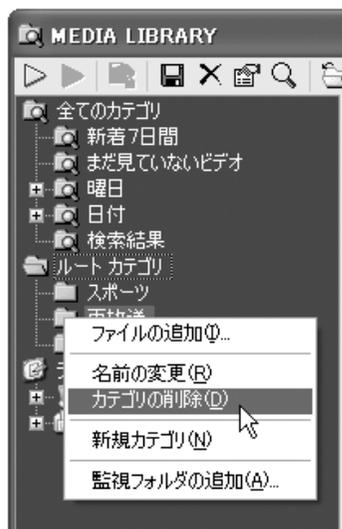
1

右クリックメニューから[設定] →
[MEDIA LIBRARY]を選びます。



2

削除するカテゴリを選び、右クリック
メニューから[カテゴリの削除]を
選びます。



3

[はい]ボタンをクリックします。
→ 選んだカテゴリが削除されます。



■ 監視フォルダを追加する

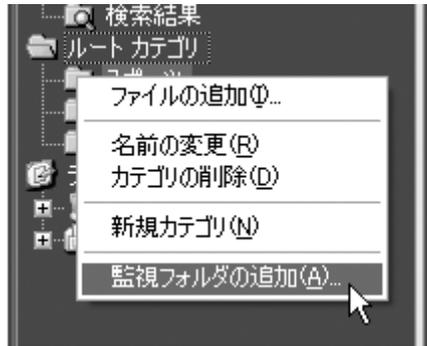
Windows内にあるフォルダを監視フォルダとして登録しておく、そのフォルダとサブフォルダ内のファイルをMEDIA LIBRARYへ表示させることができます。

直接、ファイルを監視フォルダへ追加(削除)した場合でも、自動的にMEDIA LIBRARYの表示に反映されます。

監視フォルダは、複数登録できます。

1

ルートカテゴリ内のカテゴリ上で右クリックし、[監視フォルダの追加] を選びます。



2

[フォルダ参照] ボタンをクリックし、登録するフォルダを指定します。



3

監視するファイルの種類(拡張子)を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



ルートカテゴリ内に登録したフォルダが表示されます。

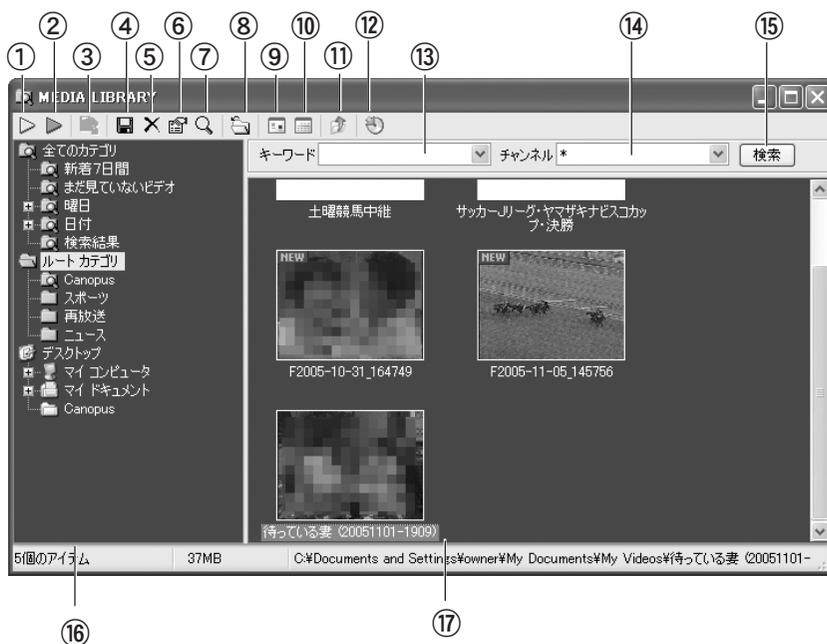
監視フォルダ



MEDIA LIBRARYについて

MEDIA LIBRARYの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [MEDIA LIBRARY]画面



①[再生]ボタン

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]ボタン

再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[X-Transcoder]ボタン

X-Transcoder が起動します。
(X-Transcoder をご購入の方のみ)

④[別名で保存]ボタン

選んだファイルを別名で保存します。

⑤[削除]ボタン

選んだカテゴリ(ファイル)をMEDIA LIBRARYから削除します。

⑥[プロパティ]ボタン

選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑦[フォルダを開く]ボタン

ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、ファイルを保存しているフォルダを開きます。

⑧[ファイルの追加]ボタン

ファイルをMEDIA LIBRARYに追加登録します。ルートカテゴリもしくはルートカテゴリ内のフォルダ選択時に有効です。

⑨[大きいアイコン]ボタン

ファイルリストの表示をサムネイル表示に切り替えます。

⑩[詳細]ボタン

ファイルリストの表示を詳細表示に切り替えます。

⑪[上へ]ボタン

選択したカテゴリの上の階層にあるカテゴリを選択します。

⑫[バスケットを開く]ボタン

[DVDバスケットを開く]を選択すると、FEATHER2006のDVDバスケットを表示します。

[データバスケットを開く]を選択すると、FEATHER2006のデータバスケットを表示します。

⑬[キーワード]

ファイルを検索するためのキーワードを入力します。一度入力したキーワードは、次回から選択できるようになります。

⑭[チャンネル]

TV番組の録画ファイルを検索するために、そのTV番組のチャンネルを選択します。

⑮[検索]ボタン

[キーワード]および[チャンネル]に合致するファイルの検索を開始します。

⑯カテゴリツリー

登録したカテゴリをツリー形式で表示します。

[全てのカテゴリ]:

MEDIA LIBRARYに登録されているファイルをすべて表示します。

[新着7日間]:

録画日時が7日間以内のファイルをすべて表示します。フォルダ名や表示期間を変更するには、右クリックメニューから[プロパティ]を選択してください。

[まだ見ていないビデオ]:

一度も再生していないファイルをすべて表示します。

[曜日]:

録画した曜日別にファイルを分類して表示します。

[日時]:

録画した日時別にファイルを分類して表示します。

[検索結果]:

検索条件に合致したファイルをすべて表示します。

[ルートカテゴリ]:

お好みで複数のカテゴリを作成することができます。作成したカテゴリに任意で名前を付け、ファイルを分類・整理できます。

[デスクトップ]:

パソコン内のファイルを、Windowsのルート順に表示します。

⑰ファイルリスト

選択したカテゴリに登録されているファイルを表示します。サムネイル表示と詳細表示をボタンで切り替えることができます。詳細表示時に表示されるアイコンの意味は次のとおりです。



: 録画後まだ再生されていないファイルを示します。

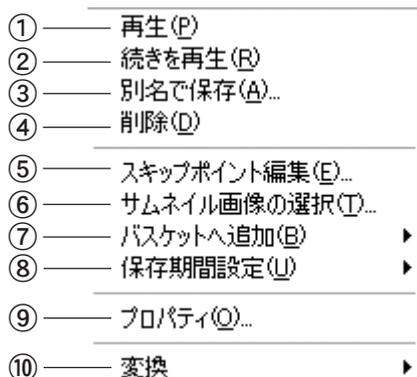


: 再生されたファイルを示します。



: 登録後、ファイルの保存場所が変更になったりファイルが削除されたことを示します。

■ファイル上での右クリックメニュー



①[再生]

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]

再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[別名で保存]

選んだファイルを別名で保存します。

④[削除]

選んだカテゴリとファイルをMEDIA LIBRARYから削除します。

⑤[スキップポイント編集]

FEATHER2006のスキップポイント編集画面(Videoモード)を表示します。スキップポイントの追加・削除・変更が可能です。

⑥[サムネイル画像の選択]

ファイルリストのサムネイル画像を、好みの場面に変更することができます。

⑦[バスケットに追加]

[DVD バスケット]を選択すると、FEATHER2006のDVDバスケットにファイルを登録します。

[データバスケット]を選択すると、FEATHER2006のデータバスケットにファイルを登録します。

⑧[保存期間設定]

設定した保存期間を過ぎると、自動的にファイルを削除します。自動的にファイルを削除しない場合は[自動削除しない]を選択します。

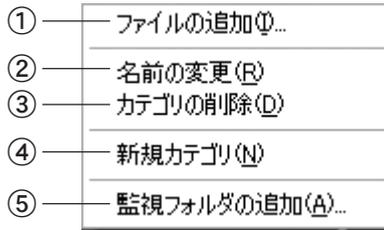
⑨[プロパティ]

選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑩[変換]

ファイル形式を変換します。変換可能なファイル形式は、お使いのFEATHERにより異なります。FEATHER2006操作マニュアルの「機能一覧対応表」をご覧ください。

■ ルートカテゴリにあるカテゴリ上での右クリックメニュー



①[ファイルの追加]

選択したルートカテゴリ(またはカテゴリ)にファイルを追加します。

②[名前の変更]

選択したカテゴリの名前を変更します。

③[カテゴリの削除]

ルートカテゴリ内の選択したカテゴリを削除します。

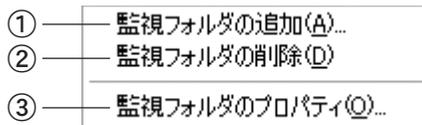
④[新規カテゴリ]

ルートカテゴリ内に新しいカテゴリを作成します。

⑤[監視フォルダの追加]

監視フォルダをルートカテゴリに追加登録します。

■ 監視フォルダ上での右クリックメニュー



①[監視フォルダの追加]

【監視フォルダの追加】ウィンドウから監視するフォルダ、監視するファイルの拡張子を設定し、フォルダを追加します。

②[監視フォルダの削除]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダを削除します。

③[監視フォルダのプロパティ]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダのプロパティを表示します。

2-2 メディア管理ツールを使いこなす

メディア管理ツールを操作する

FEATHER2006 で取り込んだ曲や写真は、マイミュージックやマイピクチャに保存されると同時に、自動的にPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。Photo/Musicメディア管理ツール上では、日時やアルバム、ジャンルなどFEATHER2006で分類されている項目別にファイルを分類しています。

別フォルダに保管している写真や曲を登録してFEATHER2006で再生したり、各ファイルの名前や日付などを変更することもできます。

■ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだ曲や写真などのファイルをPhoto/Musicメディア管理ツールに登録します。

1

右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード] を選びます。



2

[ファイルの追加]ボタンをクリックします。



3

追加登録するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。



カテゴリは、追加・削除できません。

■ファイルを削除する

1

右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード] を選びます。



2

削除するファイルを選び、[削除]ボタンをクリックします。



3

オプションを選択し、[削除する]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルが削除されます。

[ファイルを残す]：

Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]：

Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

[ファイルをゴミ箱へ移動する]：

Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動します。



■ファイル情報を変更する

1

右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード] を選びます。



2

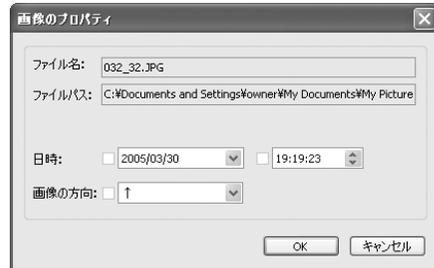
変更するファイルを選び、[プロパティ]ボタンをクリックします。



3

各情報を変更し、[OK]ボタンをクリックします。

→ ファイルの情報が変更されます。



<写真の場合>



プロパティ画面については、31ページを参照してください。

■ファイルを検索・追加する

1

右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード] を選びます。



2

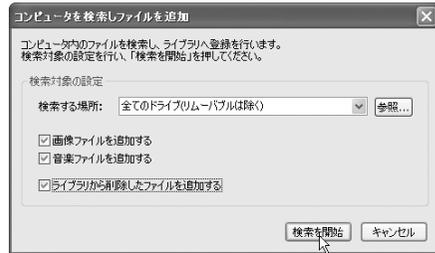
[検索・追加] ボタンをクリックします。



3

検索する場所を選択し、追加するファイルにチェックを入れた後、[検索を開始] ボタンをクリックします。

→ ファイルの検索が始まります。



4

検索を完了すると右の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

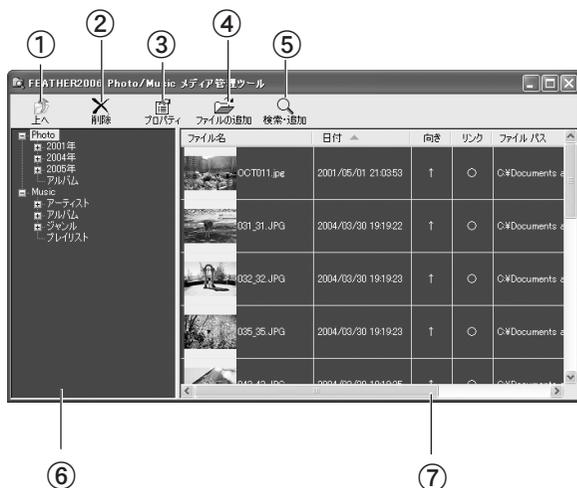
→ 検索したファイルがPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。



メディア管理ツールについて

ここでは、Photo/Musicメディア管理ツールの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [Photo/Musicメディア管理ツール]画面



①[上へ]ボタン

表示しているカテゴリの1つ上の階層にあるカテゴリを表示します。

②[削除]ボタン

選んだファイルを削除、または登録を解除します。

③[プロパティ]ボタン

選んだファイルの情報を表示します。プロパティでは、リンク先や曲名などの情報を変更できます。

④[ファイルの追加]ボタン

任意の場所に保存されているファイルを、Photo/Musicメディア管理ツールに追加登録します。

⑤[検索・追加]ボタン

指定した場所を検索し、Photo/Musicメディア管理ツールにファイルを追加登録します。

⑥カテゴリツリー

PhotoモードおよびMusicモードのライブラリで表示されているカテゴリをツリー形式で表示します。

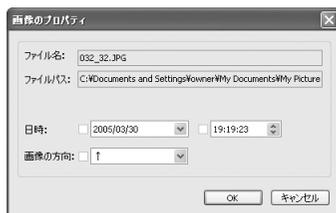
⑦ファイルリスト

選択したカテゴリに登録されているファイルとその情報を表示します。



「ライブラリ」とは、FEATHER2006の各モードでファイルを選ぶ際に表示されるファイル群を意味します。

■[画像のプロパティ]画面



[ファイル名]

ファイル名を表示します。

[日時]

静止画の撮影日時情報を表示/設定します。

[ファイルパス]

ファイルのリンク先を表示します。

[画像の方向]

画像を表示する向きを表示/設定します。

■[曲のプロパティ]画面



[タイトル]

タイトル名を表示します。
タイトル名を変更するには、直接タイトル名を入力します。

[アルバム]

アルバムカテゴリで表示される分類項目を表示します。

[ファイルパス]

ファイルのリンク先を表示します。

[ジャンル]

ジャンルカテゴリで表示される分類項目を表示します。

[トラック番号]

曲のトラック番号を表示します。

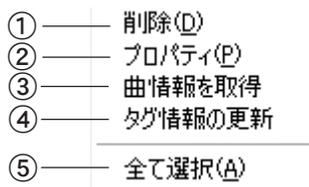
[その他の情報]

曲に付随するその他の情報を表示します。

[アーティスト]

アーティストカテゴリで表示される分類項目を表示します。

■ファイル上での右クリックメニュー



①[削除]

選んだファイルを削除、または登録を解除します。

②[プロパティ]

選んだファイルの情報を表示します。プロパティでは、リンク先や曲名などの情報を変更できます。

③[曲情報を取得]

曲名や演奏者などの曲情報を取得します。*1

④[タグ情報の更新]

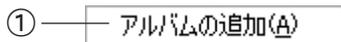
曲に付属している情報を更新します。*1

⑤[全て選択]

リストに表示されているファイルを、すべて選択します。

*1 Perfect EditionもしくはODDB拡張キットをお使いの場合のみ使用できます。

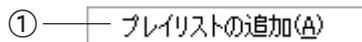
■[アルバム]カテゴリ (Photo) 上での右クリックメニュー



①[アルバムの追加]

[アルバム]カテゴリにアルバムを追加します。

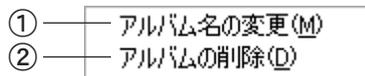
■[プレイリスト]カテゴリ上での右クリックメニュー



①[プレイリストの追加]

[プレイリスト]カテゴリにプレイリストを追加します。

■[アルバム] (Photo) 上での右クリックメニュー



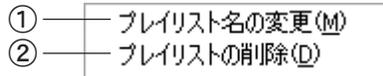
①[アルバム名の変更]

アルバムの名称を変更します。

②[アルバムの削除]

選択したアルバムを削除します。

■[プレイリスト]上での右クリックメニュー



①[プレイリスト名の変更]

プレイリストの名称を変更します。

②[プレイリストの削除]

選択したプレイリストを削除します。

第3章

MPEG マツハサーチについて

この章では、MPEG マツハサーチについて説明します。MPEG 情報生成ツールのインストール方法から MPEG 情報ファイルの生成方法まで説明します。

■MPEGマツハサーチとは

FEATHER2006 では、当社製テレビチューナー製品を使って録画した場合、MPEG ファイル以外に、自動的に GOP 情報をインデックス化した情報ファイル(*. imv、*. ima)を作成します。

FEATHER2006 では、その情報を利用し、特定の場面へジャンプしたり頭出しを行うときに、高速アクセス(マツハサーチ)を行うことができます。当社製品以外で作成された MPEG ファイルの場合、MPEG 情報生成ツールを使って情報ファイルを作成しておけば、当社製品で作成した MPEG ファイルと同様、マツハサーチを行うことができます。

3-1 MPEG情報ファイルとマッササーチ

FEATHER2006では、当社製チューナー製品を使ってMPEGキャプチャを行った場合、自動的にGOP（グループオブピクチャ）情報をインデックス化した情報ファイル（*.imv、*.ima）を作成します。

MPEGファイルはIフレームをキーフレームとして圧縮をおこなっているため、特定のシーンにジャンプしたり、頭出しをおこなったりするときに、MPEGデータの読み出しに時間がかかってしまいます。FEATHER2006ではカノープス独自の技術で作成したMPEG情報を利用し、MPEGデータの高速アクセス（マッササーチ）を行うことができます。

MPEG情報ファイルを生成する

当社製品以外で作成されたMPEGファイルはMPEG情報生成ツールを使用して、情報ファイルを作成しておけば、FEATHER2006で視聴するとき最高30倍速でシーンをサーチできます。特にVBR（可変ビットレート）のMPEGファイルでは高い効果を得ることができます。

1

『FEATHER2006』のCD-ROMをドライブにセットし、[TOOLS]フォルダをクリックします。

MPEG情報生成ツールは、このフォルダ内の[MPEGINFC]フォルダというフォルダの中にあります。



2

[MPEGINFC]フォルダを任意の場所にコピーします。これでMPEG情報生成ツールのインストールは完了です。

3

MPEG情報生成ツールを起動するには、[MPEGINFC]フォルダを開き、[MEPGINFC.exe]をダブルクリックします。

→ [MPEG Information File Creator]ダイアログが表示されます。



4

[追加]ボタンをクリックします。
→ [ファイルを開く]ダイアログが表示されます。



5

MPEG 情報を生成するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

* 他にMPEG情報を生成するファイルがある場合は、4~5の操作を繰り返します。



6

必要な場合はオプションを設定し、[実行]ボタンをクリックします。



7

ファイルの生成が完了すると、右のようなメッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

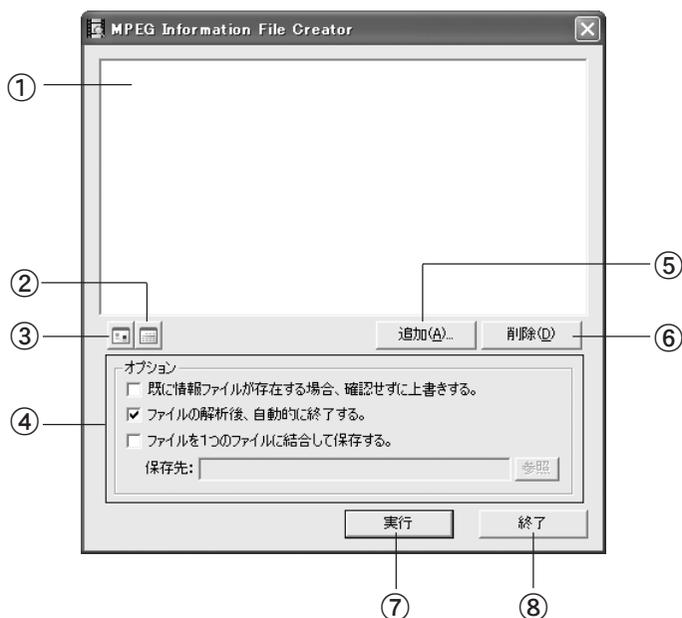
* オプションで[ファイルの解析後、自動的に終了する]を選択している場合は、プログラムをそのまま終了します。



MPEG Information File Creatorについて

MPEG Information File Creator の画面やボタンについて説明します。

■ [MPEG Information File Creator]画面



①ファイルリスト

選んだファイルがリスト表示されます。

②[詳細表示]ボタン

ファイルリストの表示を詳細表示に切替えます。

③[サムネイル表示]ボタン

ファイルリストの表示をサムネイル表示に切替えます。

④[オプション]

[ファイルを1つのファイルに結合して保存する]オプションを選ぶと、選んだすべてのMPEGファイルを結合して指定した場所に保存できます。ただし、ファイルは選んだ順番で結合されます。

⑤[追加]ボタン

選んだファイルをファイルリストに追加します。

⑥[削除]ボタン

ファイルリストから選んだファイルを削除します。

⑦[実行]ボタン

情報ファイルの生成を実行します。

⑧[終了]ボタン

プログラムを終了します。

第4章

FEATHER2006の設定

この章では、FEATHER2006で行う各種の設定項目について説明します。

4-1 メニューリストから操作をする

画面上で右クリックします。

設定を調節するメニューリストが表示されます。



本章では、当社チューナー製品を使用し、チューナー入力を選択している場合で説明しています。

メニューリストは、ご使用のチューナー製品の種類や、入力元([入力切替]を参照)により表示される項目は異なります。

視聴に関する操作をする

チャンネル：

チャンネルを切り替えます。



ミュート：

音声を消音します。

プログレッシブ：

プログレッシブ表示とインターレース(ノンプログレッシブ)表示を切り替えます。

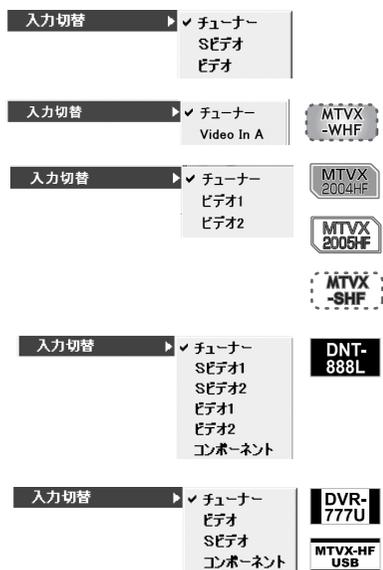
音声設定：

主音声、副音声、またはステレオ/モノラルを切り替えます。



入力切替：

入力元を切り替えます。

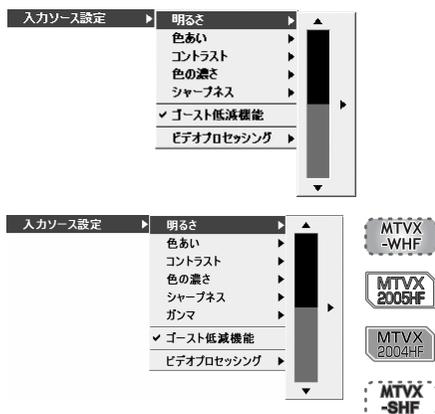


画質に関する操作をする

入力ソース設定：

映像の調整、ゴースト低減機能の設定をします。

製品により設定できる項目は異なります。

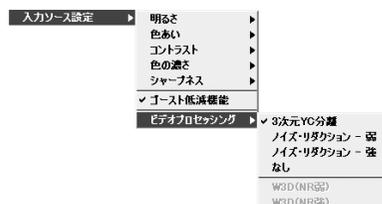


[ビデオプロセッシング]

コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズフィルタの設定をします。

※MTVX2005のノイズリダクションは、強・中・弱の3段階から設定できます。

※MTVX2006HFは、オン/オフを設定します。



※MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHF、MTVX-SHFは、3次元YC分離と3次元ノイズリダクションを同時に機能させることができます。



MTVX2006USBは、ノイズリダクションが設定できません。

録画ファイルには、ノイズリダクションの設定が可能です(「**HW-MPEG** 設定 (MTVX-USB、DVR-777U、MTVX-HFUSB)」65 ページ参照)。



画面に関する操作をする

モニター：

画面を表示します。

閉じる：

画面を閉じます(現在の操作モードを終了します)。

PC画面設定：

パソコンの画面表示(明るさ、コントラスト、色の濃さ)を調整します。[▶]で初期値に戻ります。

* MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2005/MTVX2006HF/MTVX2006USB/DNT-888L/DVR-777U/板ちゅ〜GOLD/MTVX2006 Mobile/MTVX+HUSBではこの設定はできません。



ウィンドウ：

表示する画面サイズを選択します。



アスペクト比：

アスペクト比を設定します。



レイアウト：

[読み込み]

保存してあるレイアウトを読み込み、画面の配置に反映させます。



[保存]

現在の画面配置(レイアウト)を記憶させます。5種類まで登録可能です。



タスクバーへ格納：

画面をタスクバーの範囲内で表示します。

タスクバーから取出す：

タスクバー内に表示されている画面を外に出します。

設定を変更する

設定：



[詳細設定を開く]

FEATHER 設定画面を表示します (「4-2 [FEATHER 設定] 画面から設定をする」J43 ページ参照)。

[MEDIA LIBRARY]

MEDIA LIBRARY を起動します (「2-1 MEDIA LIBRARY を使いこなす」J16 ページ参照)。

[PHOTO/MUSIC メンテナンスモード]

Photo/Music メディア管理ツールを起動します (「2-2 メディア管理ツールを使いこなす」J26 ページ参照)。

[ファイル再生]

MEDIA LIBRARY に登録したファイルの再生方法を設定します。

また、スキップポイント機能のオン/オフを設定します。



[音声ミュートを個別に設定する]

複数の当社製チューナー製品をお使いの場合、音声をミュートする画面 (製品) を指定します。初期設定では、選択されている画面の音声のみ出力されています。

[再生ウィンドウを再使用する]

複数のオーバーレイウィンドウ使用時、ひとつのオーバーレイウィンドウで切り換えながら表示する場合に選択します。

[FEATHER2006 モード]/ [FEATHER2005 モード]/ [FEATHER2004 モード]

各製品の操作画面に切り替えます。以前の製品をお使いの場合、慣れた画面で操作できます。

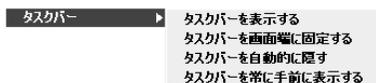
[追っかけ変換形式]

追っかけ変換で変換するフォーマットと品質を選びます。お使いの製品によっては使用できないフォーマットがあります。



タスクバー：

タスクバーの表示/非表示の切り替えや固定など、タスクバーに関する設定を行います。



そのほかの項目について

外部入力の自動録画：

チェックを入れると、コンポジットまたはSビデオ信号を監視し、信号を検出すると録画を開始し、信号がなくなると録画を停止します。

FEATHERの終了：

FEATHER2006を終了します。

4-2 [FEATHER設定]画面から設定をする

[FEATHER設定]画面について

FEATHER2006に関するさまざまな設定を行います。

1

画面上で右クリックし、メニューリストの[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。



2

左メニューで設定する項目名をクリックし、設定入力画面で設定をします。



左メニュー

設定入力画面

左メニュー

設定項目を表示します。

設定入力画面

設定内容を表示します。



- ・左メニューの表示内容は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定により異なります。
- ・設定入力画面の設定は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定([モード切替]ボタンの設定を含みます)により入力できない場合(グレーアウト表示)があります。

4-2

[FEATHER設定]画面から設定をする



[モード切替]ボタン

HW(ハードウェア)モード/SW(ソフトウェア)モードを切り替えます(ただし、ソフトウェアモードでの使用はサポート対象外となります)。一度でもソフトウェアモードを使用すると、ボタン名が[HWモード切替]または[SWモード切替]と表示されます。

※MTVX2004USB/MTVX2005USB/
MTVX2006USBでは機能しません。

[デフォルト]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、初期設定にします(ポイント参照)。

[元に戻す]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、変更する直前の設定に戻します。

3

[OK]ボタンをクリックします。設定が変更されます。



Q インストールした直後で、とくに設定はしていないのですが、テレビが白黒で表示されます。

A 不具合などがある場合、初期設定値がずれていることがあります。このような場合は初期設定値のセットをお試しください。



左メニュー

[デフォルト]ボタン

左メニューから各設定項目を選択し、[デフォルト]ボタンをクリックします。初期設定値がセットされます。

設定項目について

FEATHER2006に関するさまざまな設定を行います。



①[FEATHER設定]

バージョン情報を表示します。

②[TVチャンネル登録]

テレビのチューニングを設定します。

③[画質設定] (46ページ参照)

入力元ごとに画質を設定します。
お使いのチューナー製品により、設定内容は異なります。

④[保存先] (57ページ参照)

録画、静止画キャプチャファイルの保存先を設定します。

⑤[タイムシフト] (58ページ参照)

タイムシフトモード時の設定を行います。

⑥[録画] (60ページ参照)

エンコードの設定、ファイル拡張子の設定をします。お使いのチューナー製品により設定内容は異なります。

⑦[DVD再生] (78ページ参照)

DVD再生の設定を行います。

⑧[音声設定] (79ページ参照)

音声の出力先をオーディオ端子(内部・外部)に設定します。お使いの製品により、この項目は表示されません。

⑨[音量/ミュート] (80ページ参照)

音量の調節、ミュート(消音)を行うデバイスを選択します。

⑩[ファイル関連付け] (82ページ参照)

FEATHER2006と関連付けるファイルの拡張子を選択します。

⑪[Photo印刷設定] (83ページ参照)

Photoモードでの写真印刷の設定を行います。

⑫[ネットワーク設定] (84ページ参照)

接続できるパソコンを制限します。

⑬[その他] (85ページ参照)

トラブルシューティングに関する設定などを行います。

⑭[その他2] (86ページ参照)

スキップボタン設定、トラブルシューティングに関する設定を行います。

画質の設定をする

■[ビデオ入力設定]



[ビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

MTVX
-WHF

MTVX
2004HF

MTVX
2005HF

MTVX
-SHF



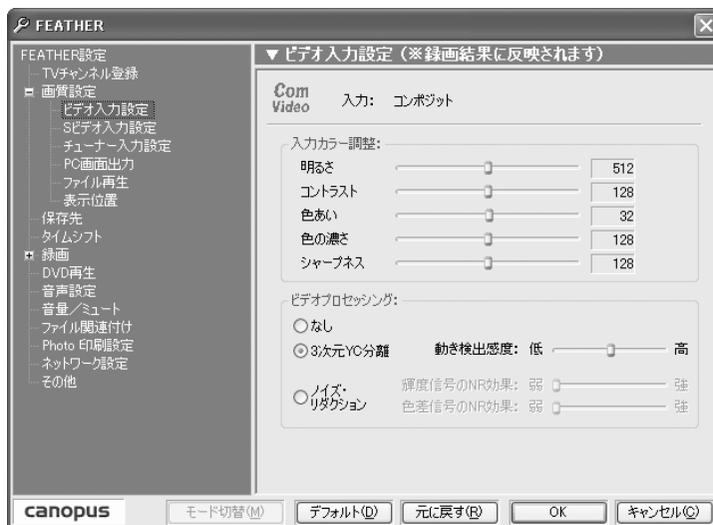
MTVX2004HF/MTVX2005HFは[ビデオ1入力設定]画面のみ表示

MTVX
2005

MTVX
2006HF

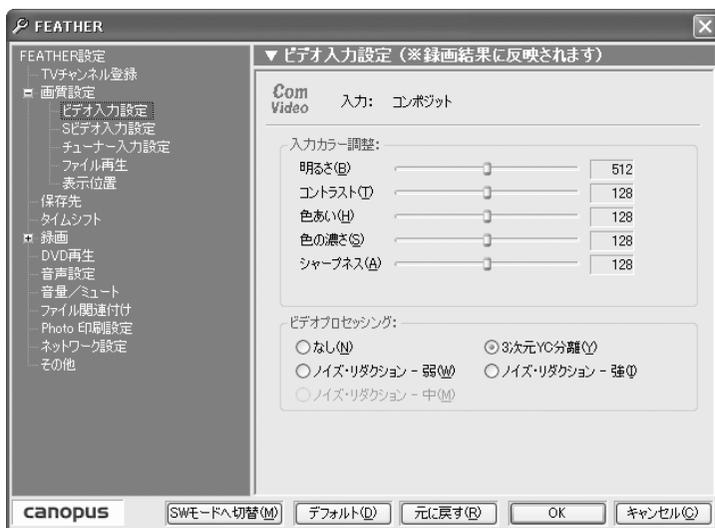
板ちゅ〜
Gold

MTVX2006
Mobile



板ちゅ〜Gold、MTVX2006 Mobileでは[動き検出感度]、[輝度信号のNR効果]、[色差信号のNR効果]のスライド調整は行えません。

【その他の機種】



入力カラー調整：
 [明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]、[ガンマ]

入力映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。
 お使いの製品によって設定できる項目が異なります。

入力ソース：
 入力信号の種類を選びます。
 ※MTVX2004HF、MTVX2005HFをお使いの場合は、コンポジットケーブルはコンポーネント接続用ケーブルの緑色の端子に接続してください。

ビデオプロセッシング：
 コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。
 MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHF、MTVX-SHFのW3Dは、ここで設定できます。
 ※MTVX2006USBは、ノイズリダクションを設定できません。



パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」53ページを参照してください。



MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-SHF、DNT-888Lの入力設定は、ビデオ入力ごとにそれぞれ設定できます。

■ [Sビデオ入力設定]

MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHF、MTVX-SHF をご使用の場合、この設定はできません。



[Sビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

MTVX
2005

MTVX
2006HF

板ちゅ〜
Gold

MTVX2006
Mobile



板ちゅ〜Gold、MTVX2006 Mobileでは[輝度信号のNR効果]、[色差信号のNR効果]のスライド調整は行えません。

【その他
の機種】



入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あ
い]、[色の濃さ]、[シャープネス]

録画映像を調整します。スライダを左右に
移動させ、表示状態を調整します。

お使いの製品によって設定できる項目が
異なります。

ビデオプロセッシング：

ノイズリダクションを設定します。

※MTVX2006USBIは、ノイズリダクションを
設定できません。



パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」53ページを参照
してください。



DNT-888Lの入力設定は、Sビデオ入力ごとにそれぞれ設定できます。



Q: Sビデオとコンポジット、どちらの入力を使えばいいですか？

A: ご使用のビデオデッキに高性能なY/C分離機能が搭載されている場合は
Sビデオ入力が効果的です。

■ [コンポーネント入力設定]

DNT-888L

DVR-777U

MTVX-HF USB



[コンポーネント入力設定] は録画結果に反映されます。デフォルト (初期設定) の設定でご使用されることを推奨します。



入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あ
い]、[色の濃さ]、[シャープネス]

録画映像を調整します。スライダを左右に
移動させ、表示状態を調整します。

※DNT-888L、DVR-777U、MTVX-HFUSBでは、色
合いを設定できません。

ビデオプロセッシング：

ノイズリダクションを設定します。



パソコン画面の表示 (オーバーレイ) については「■ [PC画面出力]」53ページを参照
してください。

■[チューナー入力設定]



[チューナー入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。



板ちゅ〜Gold、MTVX2006 Mobileではゴースト低減機能は選択できません。また、[動き検出感度]、[輝度信号のNR効果]、[色差信号のNR効果]のスライダ調整は行えません。

【その他の機種】



入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あ
い]、[色の濃さ]、[シャープネ
ス]、[ガンマ]

録画映像を調整します。スライダを左右に
移動させ、表示状態を調整します。
お使いの製品により設定できる項目が異
なります。

ビデオプロセッシング：

3次元YC分離、ノイズリダクションを設定し
ます。

MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHF、MTVX-
SHF のW3Dは、ここで設定できます。

※MTVX2006USBは、ノイズリダクションを
設定できません。

[ゴースト低減機能]

ゴーストリデューサーを設定します。

[前ゴースト低減範囲]

[広く]を選択すると低減範囲は広がります
が、孫ゴーストが発生する可能性があります。

※MTVX2004USBでも設定可能です。

受信周波数の微調整：

受信周波数を微調整します。

受信状態を確認しながら、スライダを左右
に移動させます。

※受信状態が悪い場合は、アンテナやアンテナ
線との接続などもご確認ください。



ゴースト低減機能

テレビ信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路
に設定(10Tap デジタルゴーストリデューサー)をすることで、ゴーストを
低減します。

※ゴースト除去用の信号が正常に受信できない地域では効果が無い場合があります。

※10個以上のゴーストは原理的に低減できません。

※ゴースト低減機能は、チャンネル選択後1秒～2秒後に機能し、画像が安定するまで1
分程度かかります。



パソコン画面の表示(オーバーレイ)については次項「**■[PC画面出力]**」を参照して
ください。

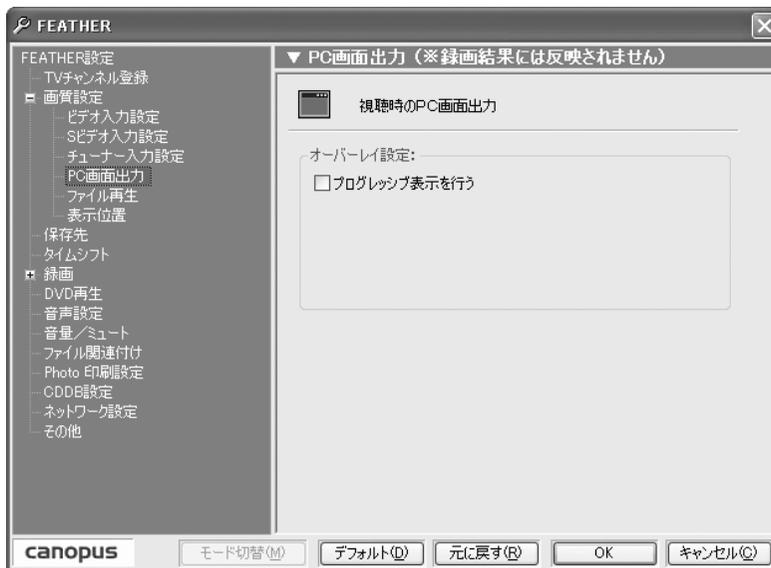
■ [PC画面出力]

ソフトウェアモードの場合は表示されません。

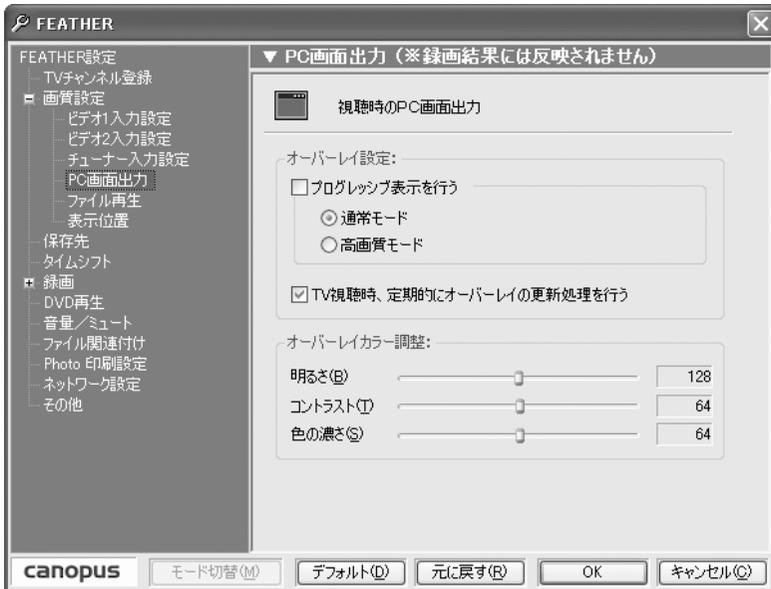
MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2006USB/DNT-888L/DVR-777U/MTVX-HFUSBをご使用の場合、この設定はできません。



[PC画面出力]の設定は録画結果に反映されません。



【その他の機種】



オーバーレイ設定：

[プログレッシブ表示を行う]

プログレッシブ再生を行います。高画質モードで不具合が出たときは、通常モードに変更してください。

[TV視聴時、定期的にオーバーレイの更新処理を行う]

テレビ出力機能を持ったグラフィックボードをご使用の場合に、オーバーレイが更新されない現象が生じた時にこの設定をお試しください。ただし、更新を非同期で行うため、カクカクした動きになることがあります。

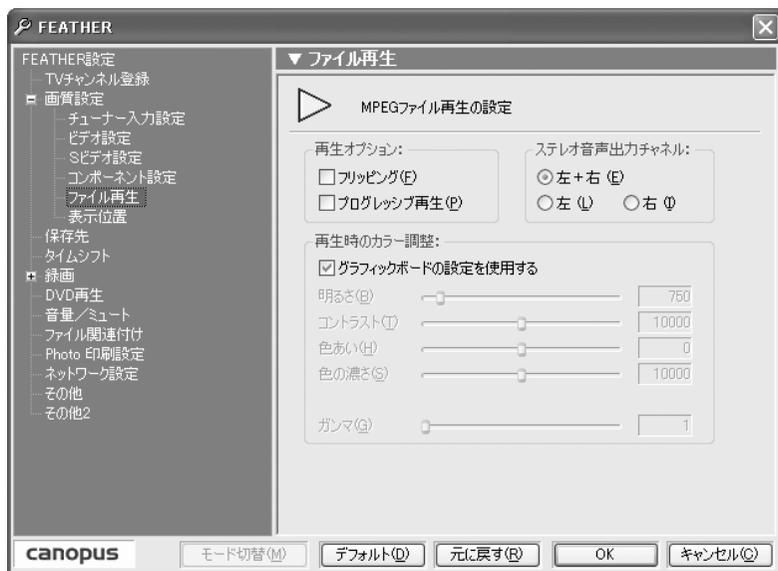
オーバーレイカラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色の濃さ]

スライダを左右に動かし、適切な表示状態になるように調整します。

■ [ファイル再生]

ソフトウェアモードの場合は設定できません。



再生オプション： [フリッピング]

ティアリング(動きのある部分が横線ですれて見える)が出る場合に設定します。

[プログレッシブ再生]

プログレッシブ再生を行います(ポイント参照)。

ステレオ音声出力チャンネル： 音声出力を行うチャンネルを設定します。

再生時のカラー調整： [グラフィックボードの設定を使用する]

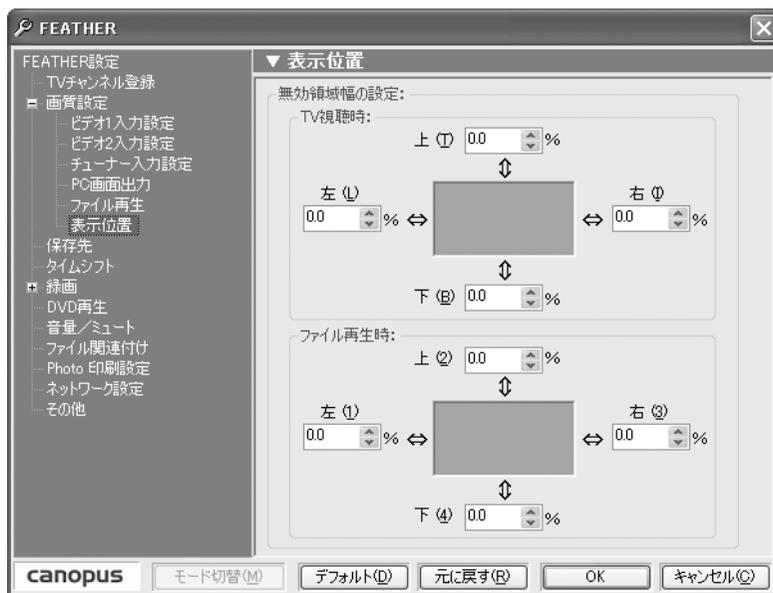
デフォルトで設定されています。チェックを外すとスライダで調整することができます。



プログレッシブ再生

偶数・奇数フィールドを個別に1/60秒間隔で更新し、フィールドを補間して表示を行います。非インタレース映像(例:MPEG1 およびMPEG2のSIFサイズのもの)では機能しません。

■ [表示位置]



無効領域幅の設定：

TV視聴時：、ファイル再生時：

無効領域の幅を設定(0～10%)します。

設定した無効領域幅は削除され、有効表示部分が拡大します。

保存先の設定をする

録画ファイル、静止画ファイルの保存先を設定します。

■ [保存先]



録画：

録画ファイルの保存フォルダを設定します。

静止画キャプチャ：

静止画ファイルの保存フォルダを設定します。

[保存ファイル名]

ファイル名(自動生成されるファイル名の先頭に追加されます)を設定します。

[保存形式]

静止画ファイルの保存形式を設定します。

[サイズ]

静止画ファイルの保存サイズを設定します。



- ・ [参照] ボタンをクリックし、[フォルダの参照] 画面からフォルダを設定します。
- ・ [保存先] に直接キーボードから入力することができます。

タイムシフトの設定をする

■[タイムシフト]



タイムシフトモード：

[標準モード]では、タイムシフトのためのバッファは、タイムシフトが終わると消去されます。また、タイムシフトが可能な時間は、[ディスク容量から自動計算する]、[指定する]のどちらかから選択します。[録画モード]では、タイムシフトと同時に録画を行います。

バッファを作成する場所：

タイムシフトのためのバッファデータを保存するフォルダを設定します。



タイムシフトのしくみ

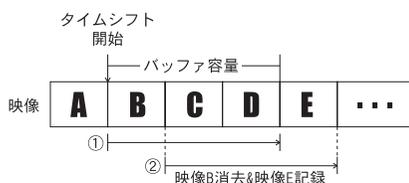
この機能には、タイムシフト中のみ映像の再生を行うことができる標準モードとタイムシフト終了後もMPEGファイルとして、映像を保存できる録画モードがあります。

標準モード

一定時間分のバッファで映像を記録していき、バッファ容量が限度にきたところで古い映像から消去を行い、新しい映像の記録を続けます。

バッファ容量内で記録されている映像は、その範囲内で自由に再生・巻戻し・早送り等することができます。バッファ時間は任意で設定することができます(58ページ参照)。

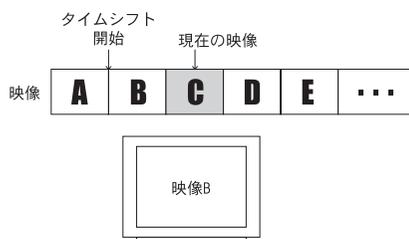
※標準モードでは、タイムシフトを終了すると記録したすべての映像が消去されます。



①で映像Bから映像Dまでのバッファ容量でタイムシフトを開始した場合、バッファ容量が映像Dの終りに達したところで映像Bが消去され、②その分のバッファで映像Eの記録を行います。

録画モード

タイムシフトされた映像がMPEGファイルとしてハードディスクに保存されます。タイムシフト終了後も映像を保存しておきたい場合に使用します。



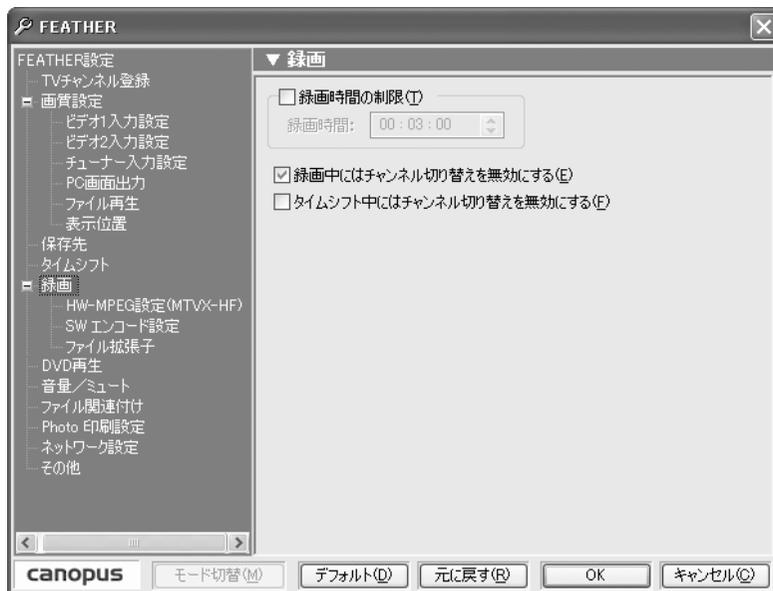
通常の録画モードではスクリーン上に現在の映像が表示されますが、タイムシフトの録画モードでは、スクリーン上に表示される映像はハードディスクに既に記録された映像の再生となります。また、録画開始時に記録するファイル名を指定するのではなく、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。



ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録画データの設定を変更する必要があります。

エンコードの設定をする

■ [録画]



【録画時間の制限】

録画時間の上限を設定します。

【録画中にはチャンネル切り替えを無効にする】

録画中の入力元、チャンネルの切り替えを禁止します。

【タイムシフト中にはチャンネル切り替えを無効にする】

タイムシフト中のチャンネル切り替えを禁止します。

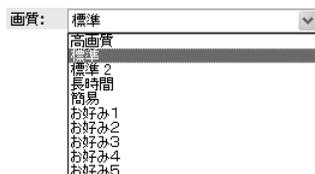
■ [HW-MPEG設定 (MTVX-WHF、MTVX-SHF)]



MPEGの設定については「6-1 各設定項目をもっと詳しく」100ページを参照してください。



画質：



画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、ビットレート8000kbps (VBR)で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、ビットレート5000kbps (VBR)で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、ビットレート4000kbps (VBR)で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、ビットレート3000kbps (VBR)で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート2000kbps (VBR)で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※ MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

〔画像サイズ〕

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

〔アスペクト比〕

録画データに記録するアスペクト比を選択します。

映像のアスペクト比に合わせてください。

〔固定ビットレート〕（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。

動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。

平均のビットレートを設定します。

〔可変ビットレート〕（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。

ビットレートの最大値と平均値を指定します。

GOP：

〔I frame〕

すべてのフレームをIピクチャとして記録します。編集に向きます。

〔IBBP〕

一般的なMPEGの機能で録画データを記録します。編集には不向きです。〔ピクチャ枚数〕

ひとつのGOPに含まれるPフレームの数を設定します。

〔周期〕

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。

Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBBPBPBP…」とデータが並びます。

オーディオ設定：

〔形式〕

圧縮形式を設定します。

〔ビットレート〕

ビット量を設定します。

録音レベル：

録音レベルを調整します。



GOPオプション

当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■ [HW-MPEG設定 (MTVX、MTVX-HF、DNT-888L)]

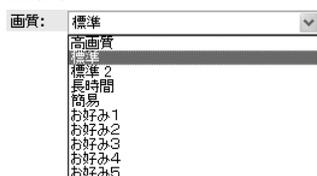
※MTVX2004/MTVX2004HF/MTVX2005HF/DNT-888L



MPEGの設定については「6-1 各設定項目をもっと詳しく」100ページを参照してください。



画質：



画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps (VBR) で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9000kbps (VBR) で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、最大ビットレート8000kbps (VBR) で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、最大ビットレート6000kbps (VBR) で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート5000kbps (VBR) で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定] をカスタマイズすることができます。

※ MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易] から選択してください。

ビデオ設定：

【画像サイズ】

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

【固定ビットレート】（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。

動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。

平均のビットレートを設定します。

【可変ビットレート】（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。

ビットレートの最大値と平均値を指定するか、品質を指定します。

GOP：

【I frame】

すべてのフレームをIピクチャとして記録します。編集に向きます。

【IBBP】

一般的なMPEGの機能で録画データを記録します。編集には不向きです。

【ピクチャ枚数】

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

【周期】

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。

Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。

【GOPオプション:Closed GOP】

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

【形式】

圧縮形式を設定します。

【ビットレート】

ビット量を設定します。

【プリエンファシス】

高音域を強調します。

録音レベル：

録音レベルを調整します。

※DNT-888Lは録音レベルを調整できません。



GOP オプション

当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■ [HW-MPEG設定 (MTVX-USB、DVR-777U、MTVX-HFUSB)]

※MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2006USB/DVR-777U/MTVX-HFUSB



MPEGの設定については「6-1 各設定項目をもっと詳しく」100ページを参照してください。

MTVX
2006USB

DVR-
777U

MTVX-HF
USB



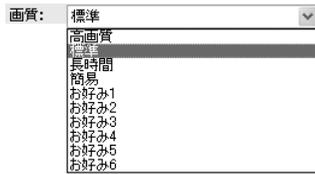
4-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

【その他
の機種】



画質：



画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps (VBR) で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

[長時間]

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

[簡易]

画像サイズ720×480、ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

[お好み1～6]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※ MPEG に関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易] から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[固定ビットレート] (CBR)

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。

平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート] (VBR)

ビデオのデータ量が場面によって変動します。

ビットレートの最大値と平均値を設定します。

GOP：

[ピクチャ枚数]

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

[周期]

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。

Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBPPB…」とデータが並びます。

[GOPオプション:Closed GOP]

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

ノイズリダクション：

ノイズリダクション機能を使用する場合は、[自動]を選択します。

※ MTVX2006USBのみ設定できます。

オーディオ設定：

[サンプリングレート]

サンプリングの周波数を設定します。

[ビットレート]

1秒あたりの音声データ量を設定します。

[チャンネル]

音声の種類を設定します。



GOPオプション

当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■ [HW-MPEG設定 (MTVX2005)] ※MTVX2005、MTVX2006HF



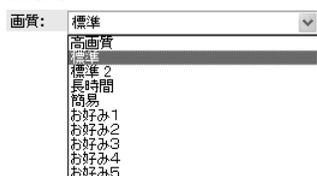
MPEGの設定については「6-1 各設定項目をもっと詳しく」100ページを参照してください。



4-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

画質：



画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps (VBR) で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9000kbps (VBR) で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、最大ビットレート8000kbps (VBR) で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、最大ビットレート6000kbps (VBR) で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート5000kbps (VBR) で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定] をカスタマイズすることができます。

※ MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易] から選択してください。

ビデオ設定：

【画像サイズ】

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

【アスペクト比】

録画データに記録するアスペクト比を選択します。

映像のアスペクト比に合わせてください。

【固定ビットレート】（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。

動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。

平均のビットレートを設定します。

【可変ビットレート】（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。

ビットレートの最大値と平均値を指定するか、品質を指定します。

GOP：

【自動】

最適な設定値を自動的に選択します。

【マニュアル】

ピクチャ枚数と周期の組み合わせを選択します。

【ピクチャ枚数】

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

【周期】

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。

Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。

【GOPオプション:Closed GOP】

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

ノイズリダクション：

ノイズリダクション機能を使用する場合はチェックを入れます。スライダーでレベルを調整します。

オーディオ設定：

【ビットレート】

ビット量を設定します。

【チャンネル】

音声の種類を設定します。

録音レベル：

録音レベルを調整します。



GOPオプション

当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[SWエンコード設定]



MTVX2004USB/MTVX2005USB/
MTVX2006USB/DVR-777U/MTVX-
HFUSBをご使用の場合は設定でき
ません。

[ソフトウェアコーデック選択]
ボタンをクリックし、使用に関する注
意ダイアログに同意すると、各種の
設定が行えるようになります。



- ・当社が各製品に付属して提供しているMPEGコーデック以外を使用した動
作に関しては、サポート対象外となります。
- ・SWエンコードでのDivXによるキャプチャは、サポート対象外となります。

4-2

[FEATHER設定]画面から設定をする



[設定登録]

SWエンコードの設定をプリセットとして
登録します。

ビデオ設定：

[ソース]、[ビデオサイズ]、[フ
レームレート]

映像の入力元、解像度、フレームレートを
設定します。

[AVIコーデック]/[ソフトウェア MPEG]/[DivX (AVI)]

DivX(AVI)を選択し、[エンコード設定]ボタンをクリックすると詳細設定を行えます(「●エンコード設定」参照)。

オーディオをキャプチャする：

[ソース]、[フォーマット]

オーディオをキャプチャします。

音声の入力元、音声フォーマットを設定します。

[AVIコーデック]/[ソフトウェア MPEG]/[MP3 (AVI)]

オーディオのSWエンコード形式を設定します。

[録画中にビデオウィンドウを表示しない]

オーバーレイを非表示にし、CPU の負荷を軽減します。

[視聴時にダイレクトプレビューを使用する]

ダイレクトプレビューを使用し、CPU の負荷を軽減します。

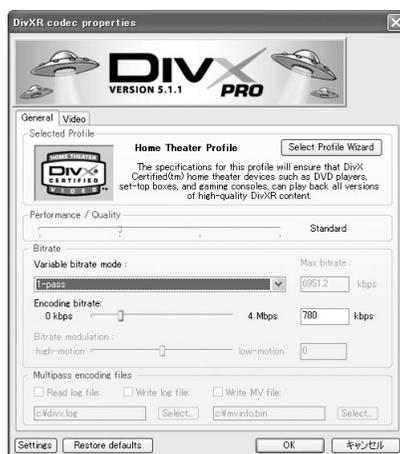
●エンコード設定

ビデオのエンコード設定で「DivX(AVI)」を選び、[エンコード設定]をクリックすると、次のようなダイアログが表示されます。

※X Packシリーズ、もしくはDivXコーデックを使用している場合のみ表示されます。

※表示される画面は、DivXのバージョンによって異なります。

[General]タブ



Selected Profile

[Select Profile Wizard]で選択されたプロファイルが表示されます。

選択するプロファイルによって使用可能なビットレートの範囲が変わります。

Performance / Quality

変換速度と画質を設定します。スライダが右に行くほど、変換速度より画質が優先されます。

Bitrate

[Variable bitrate mode]
エンコード方式を設定します。
[Encoding bitrate]
動画のビットレートを設定します。
[Bitrate modulation]
ソースデータによってビットレートを調節することができます。
([Variable bitrate mode]で Multipass, nth passを選択した場合のみ設定できます。)

Multipass encoding files

「M file」をチェックすると、映像の動きを記録し、マルチパスエンコード時に効率的に処理が行われます。
「1 st pass」時と「nth pass」時では処理が異なります。
※ リアルタイムキャプチャ時は、チェックを入れないでください。

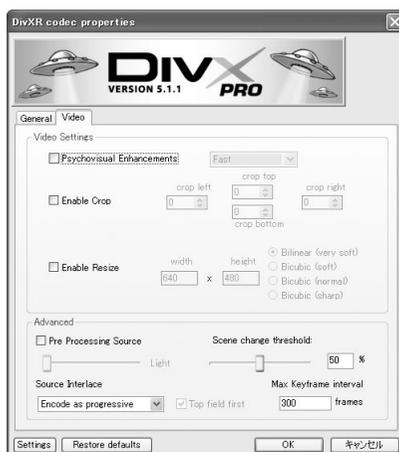


[Select Profile]で[Disable Profile]にチェックを入れると、Bitrateで1-pass quality-basedが選択できるようになります。1-pass quality-basedではQuantizerで画質を設定します。



DivXで変換を行なう際、「Feedback Window」というウィンドウが連続で表示され、非常に負荷がかかる場合があります。
「Feedback Window」を非表示にするには、[Settings]ボタンで[Settings]ダイアログを表示させ、[Disable the feedback window]にチェックを入れてください。

[Video]タブ



Video Settings

[Psychovisual Enhancements]

ソースデータの効果を補完する場合、「Fast」または「Slow」から選択します。

[Enable Crop]

出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。

[Enable Resize]

元のソースデータから解像度、画質を変更して出力する場合に設定を行います。

Advanced

[Pre Processing Source]

チェックを入れると、スライダを移動させることによりソースデータのノイズやゴーストを前処理することができます。

[Scene change threshold]

キーフレームの挿入間隔をスライダの移動または数値を入力することにより指定します。

[Source Interlace]

ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。

[Max Keyframe interval]

キーフレームの間隔を入力します。

■ [SW-MPEG設定]

MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2006USB/DNT-888L/DVR-777U/MTVX+FUSBをご使用の場合は設定できません。ソフトウェアエンコーダ製品のみ以下の「MPEG」関係の設定画面が出てきます。



この項目は、[SWエンコード設定]の[ビデオ設定]で[ソフトウェアMPEG]を選択した場合に設定することができます。



録画デバイス：

現在選択されているデバイスを表示します。

ビデオ形式：

[MPEG1]

ビデオをMPEG1形式でエンコードしたい場合に選択します。

[MPEG2]

ビデオをMPEG2形式でエンコードしたい場合に選択します。

[Video CD]

ビデオCDを作成したい場合に選択します (MPEG1の中でも、特にビデオCDの規格に準拠した形式でエンコードします)。

[Super Video CD]

ビデオCDの上位互換機種として制定された規格です。再生可能なプレイヤーは限られています。

ストリーム：

[プログラムストリーム]

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して1つのファイルに記録します。

画質：

[高画質2]

画像サイズ640×480、ビットレート5Mbpsで録画します。

[高画質1]

画像サイズ320x480、ビットレート4Mbpsで録画します。

[普通]

画像サイズ320x240、ビットレート3Mbpsで録画します。

[長時間]

画像サイズ320x240、ビットレート2Mbpsで録画します。

[マニュアル設定]

ビデオ、オーディオの設定をカスタマイズすることができます。[マニュアル設定]を

選択すると、[詳細]ボタンをクリックすることが可能になり、[ビデオ]、[オーディオ]の設定画面で入力ができるようになります。

※ MPEGに関する知識が必要です。通常は[高画質2]、[高画質1]、[普通]、[長時間]から選択してください。

[MTPayerMP20HDD/MultiRDVD/MultiRHDDでの再生時に問題が生じる場合、この項目をチェックしてください。]

FEATHER2006で作成したファイルを当社製MTPayerやMultiRシリーズで再生したときに、問題が生じた場合はチェックを入れてください。

■ [ビデオ] – SW-MPEG設定の詳細 –



- この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
- [SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。



プロファイルとレベル：

MPEG2のプロファイルとレベルを設定します。
通常は[MP@ML]選択します。

ビットレート：

ビデオデータのビット量を指定します。

GOPパターン：

一般的なMPEGの機能で録画する場合はIBBPを、すべての録画データのフレームを1ピクチャとして記録する場合はI Frameを選択します。通常は、IBBPを選択します。

[動きベクター]

動きベクターを検出する範囲を指定します。大きな値を指定するほど、動きの激しいシーンでの品質が向上しますがCPUへの負荷が高くなります。

[フレームレート]

1秒間に描画するフレーム数を指定します。

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]

録画データに記録するアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[スタンダード]

テレビ方式の設定です。
[NTSC]のみ選択できます。

■ [オーディオ] – SW-MPEG設定の詳細 –



- この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
- [SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。



音質：

[サンプリングレート]

32kHz、44.1kHz、48kHzから選択します。

[オーディオビットレート]

圧縮比率を設定します。

形式：

[Layer 2]

MPEGオーディオのレイヤー2規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

チャンネル：

[ステレオ]

LチャンネルとRチャンネルの信号にある程度の相関がある場合に選択します。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合に選択します。

[ジョイント]

LチャンネルとRチャンネルの信号の相関が強い場合に選択します。

[デュアル]

LチャンネルとRチャンネルの信号に相関がほとんどない場合、各チャンネルに全く異なる音を記録する場合などに選択します。

[モノラル]

1チャンネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

品質：

オーディオのエンコードにおける品質を指定します。高音質を指定するほどCPUへの負荷が高くなります。

■[ファイル拡張子]

**MPEG1 :**

MPEG1のシステムストリーム、エレメンタリストリーム(ビデオ、オーディオ)の拡張子を設定します。

MPEG2 :

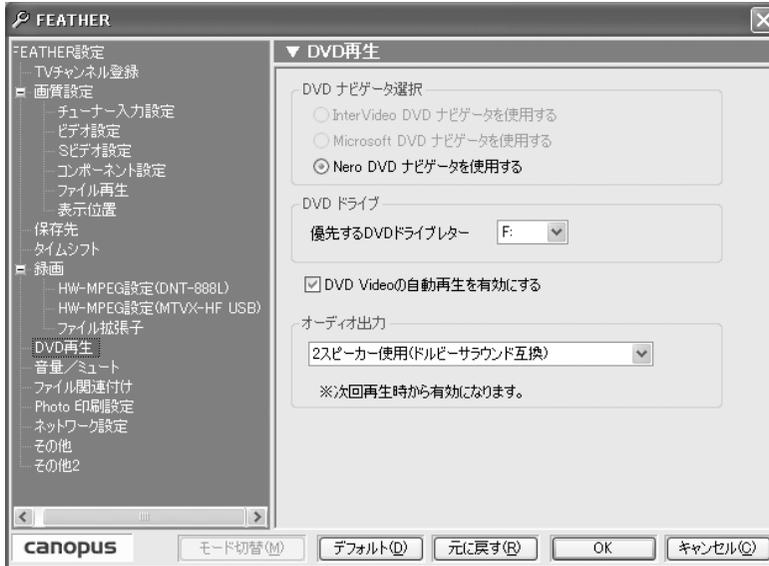
MPEG2のプログラムストリーム、エレメンタリストリーム(ビデオ、オーディオ)の拡張子を設定します。



組み合わせる製品によって、使用されない設定があります。

DVD再生の設定をする

■ [DVD再生]



[DVDナビゲータ選択]

InterVideo DVDナビゲータ、Microsoft DVDナビゲータ、Nero DVDナビゲータから選択します。

※お使いの製品によって選択できる項目が異なります。

[DVDドライブ]

DVD再生時に優先的にDVDボリュームを検索するドライブを指定します。

[DVD Videoの自動再生を有効にする。]

DVDモードへの切り替え、またはFEATHER2006本体のイジェクト/クローズボタンを使用した場合に自動的に再生を開始します。

[オーディオ出力]

オーディオ出力形式を指定します。
※お使いの製品によって選択できる項目が異なります。

音声の設定をする

■ [音声設定] MTVX-2006HF



【視聴デバイス】

内部、または外部でオーディオケーブルを接続している場合、接続しているボードを選びます。

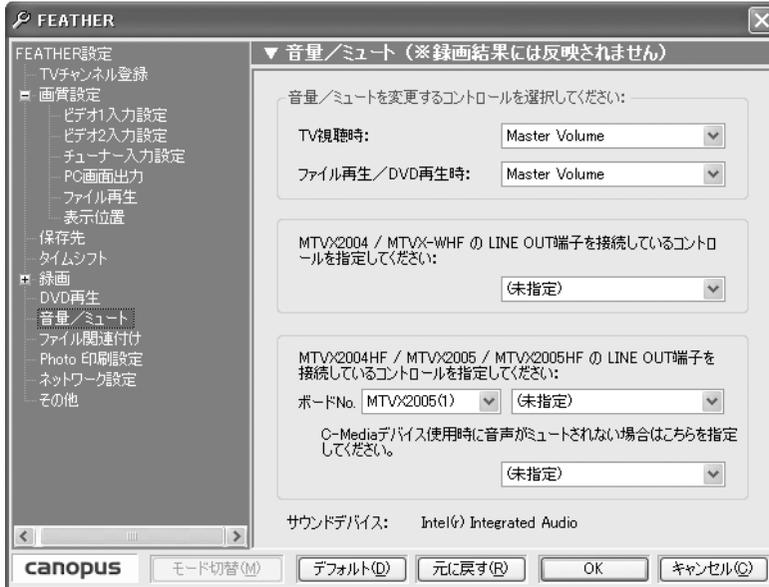
【音声出力をLINE OUT経由で行う】

チェックを入れると、内部もしくは外部で接続しているオーディオケーブルを経由して音声を出力します。



PCI 経由で音声が出力されるタイプの当社製品をお使いの場合でPCI 経由での音声出力に不具合があったときのみ、オーディオケーブルでボードとパソコンを接続し、本項目を設定してください。

■[音量/ミュート]



音量/ミュートを変更するコントロールを選択してください：

テレビ視聴時、ファイル再生/DVD再生時に、音量、ミュートの調節を行う入力ラインを選択します。

[TV視聴時]、[ファイル再生/DVD再生時]

ボリュームコントロール、WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。[ボリュームコントロール]を選択すると、すべての入力ラインに対して音の調節を行います。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[MTVX2004/MTVX-WHFのLINE OUT端子を接続しているコントロールを指定してください]

WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[MTVX2004HF/MTVX2005/MTVX2005HF/MTVX-SHFのLINE OUT端子を接続しているコントロールを指定してください]

WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

複数のボードを使用している場合は、ボードNo. を指定します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[デバイス使用時に音声ミュート
されない場合はこちらを指定して
ください。]

Stereo Mix、CD Audio、Line In、Microphone
から選択します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる
項目が異なります。



LINE OUT 端子に接続しているコントロールを指定していないと、テレビ視聴時に音声聞こえない、またはパソコン側で音量の調節ができなくなります(MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2006USB/DNT-888L/DVR-777U/MTVX-HFUSBを除く)。

そのほかの設定について

■[ファイル関連付け]



[FEATHERと関連付けるファイル の拡張子を選択してください。]

FEATHER2006と関連付けるファイルの拡張子を選択します。



CGMS-A対応モデルで、BS/地上デジタル放送などの「一度だけ録画可能」なコピー制御信号(コピーワンス信号)付きの番組を録画した場合、FEATHER2006は拡張子「m2d」が付いた録画ファイルを作成します。このm2dファイルには、次の制限があります。

- ・m2dファイルを他のハードディスクへ移動させたりDVDなどのメディアへ記録した場合でも、録画したパソコン(システム)にインストールされたFEATHER2006以外で再生できません。
 - ・当社製X-TransCoderでのファイル形式の変換はできません。
- なお、ソフトウェアモードではコピーワンス信号付きの番組を録画できません。

■ [Photo印刷設定]



使用するプリンタ： [プリンタ]

静止画の印刷に使用するプリンタを選択します。プリンタの設定を変更するには [プロパティ] ボタンをクリックします。

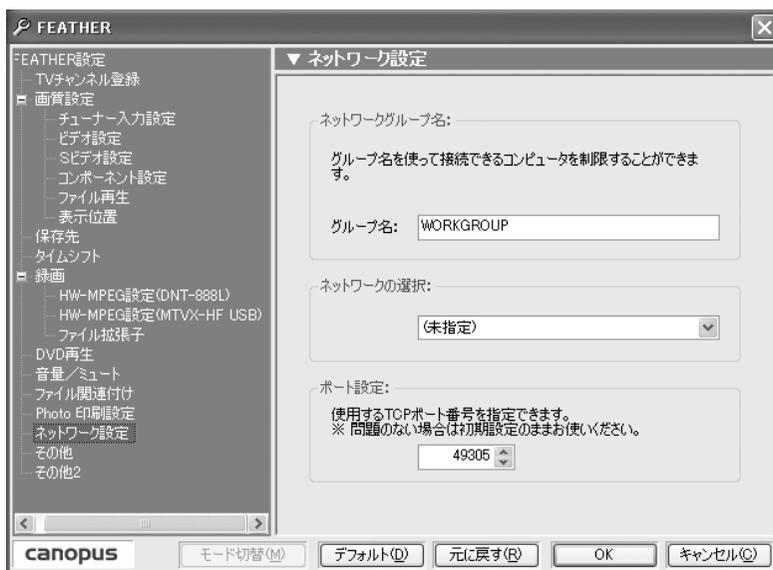
印刷レイアウト： [余白を最小にする]

用紙の余白が最小になるように、画像を拡大して印刷します。画像サイズの比率によって、上下または左右が一部印刷されないことがあります。

[画像全体を用紙に収める]

静止画全体が用紙に収まるように、画像を拡大して印刷します。

■[ネットワーク設定]



ネットワークグループ名：

ネットワークを構成するグループのグループ名を入力します。異なるグループに属するパソコンは、ネットワークサーバー選択画面に表示されません。

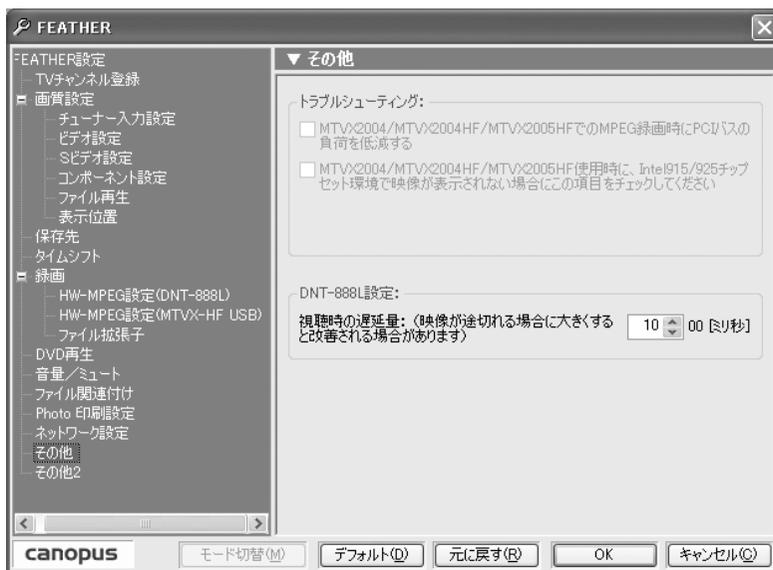
ネットワークの選択：

LANカードが複数ある場合、使用するLANカードを選択します。

ポート設定：

使用するTCPポート番号を指定することができます。

■[その他]



[トラブルシューティング]

必要に応じてチェックしてください。

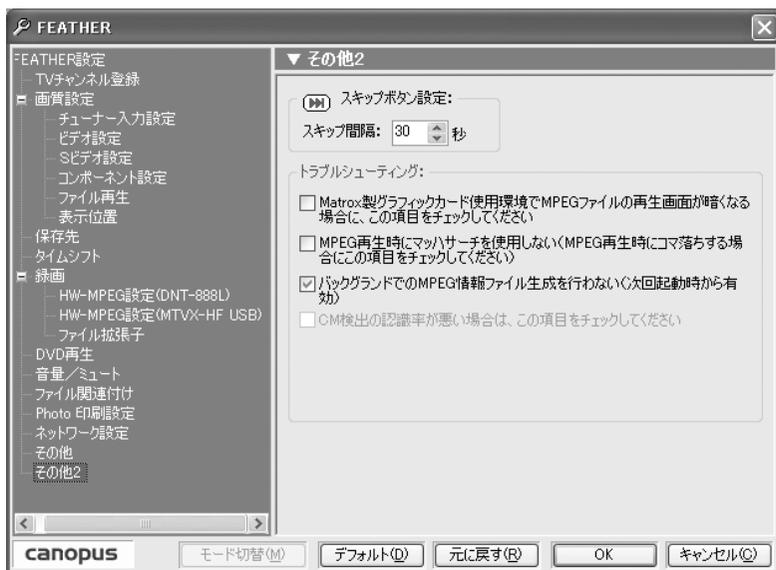
[DNT-888L 設定]

テレビ視聴時に映像が途切れる場合、設定すると状況が改善されることがあります。



[MTVX2004/MTVX2004HF/MTVX2005HF でのMPEG録画時にPCIバスの負荷を低減する]にチェックを入れると、MPEGデータの転送を優先するため、録画時の表示解像度が小さくなります。

■[その他2]



[スキップボタン設定]

タイムシフト、追っかけ再生、ファイル再生時のスキップ間隔を設定します。

[トラブルシューティング]

必要に応じてチェックしてください。

第5章

録画予約の確認と修正

この章では、録画予約の確認、修正方法、および EPG 番組情報を使わない手動録画予約の方法について説明します。

また [予約一覧] 画面に関係する画面についても説明しています。

5-1 録画予約の確認と修正

録画予約を確認・修正する

FEATHER2006で録画予約した内容は、予約一覧画面で確認することができます

1

コントローラーの[予約一覧]ボタンをクリックします。

→ [予約一覧]画面が表示されます。



2

予約情報を確認します。



3

予約情報を詳しく確認したいとき、もしくは予約情報を修正したいときは、リスト中の予約情報をダブルクリックします。

→ [録画スケジュール]画面が表示されます。



[録画スケジュール]画面については、95ページを参照してください。



[予約一覧]画面で予約情報を選択して[編集]ボタンをクリックしても[録画スケジュール]画面を表示させることができます。

[予約一覧]画面から録画予約する

EPG(電子番組表)を使わずに、手で録画予約します。

- 1 コントローラーの[予約一覧]ボタンをクリックします。
→ [予約一覧]画面が表示されます。



- 2 [追加]ボタンをクリックします。
→ [予約設定]画面が表示されます。



- 3 録画日時を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



[開始時刻]と[終了時刻]を設定すると、自動的に[録画時間]が設定されます。

- 4 番組名やチャンネルを設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



5

録画予約の内容を確認し、[完了]ボタンをクリックします。

→画面が閉じます。

以上で、録画予約は完了です。



[予約設定]画面の各項目については、「[録画スケジュール]画面」95ページを参照してください。

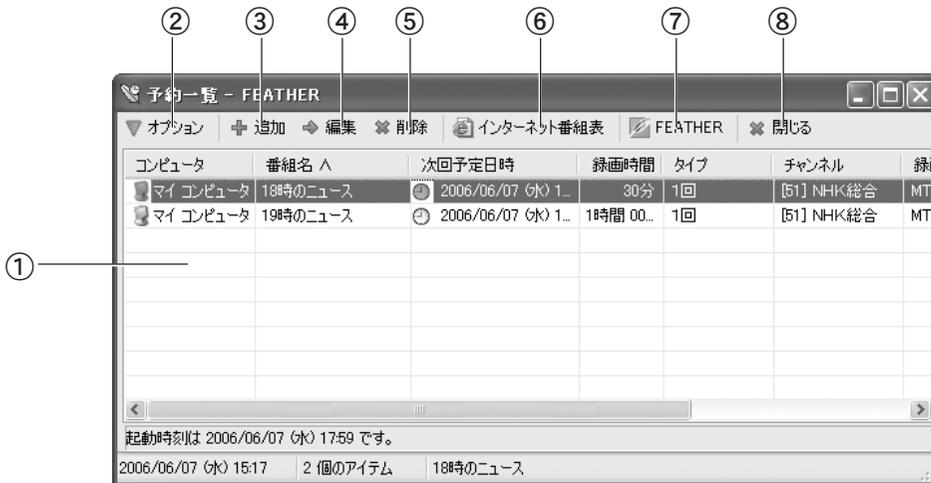


予約情報に誤りがあったときは、[完了]ボタンをクリックする前に[戻る]ボタンをクリックして誤っている箇所を修正してください。

5-2 録画予約に関連する画面

[予約一覧]画面

[予約一覧]画面では、現在録画予約されている番組の確認や修正を行うことができます。ここでは、[予約一覧]画面のボタンやメニューについて説明します。



①リスト

現在予約されている番組情報を表示します。

②[オプション]ボタン

予約一覧のオプションを設定します。

③[追加]ボタン

手動で録画予約できます(89ページ参照)。

④[編集]ボタン

リスト上で選択されている録画予約を修正できます(95ページ参照)。

⑤[削除]ボタン

リスト上で選択されている録画予約を削除します。

⑥[インターネット番組表]ボタン

「テレビ王国」のトップページを表示します(初期設定)。

表示するホームページを変更するには、[設定]ボタンをクリックし[番組情報]タブ画面でアドレスを設定してください(93ページ参照)。

⑦[FEATHER]ボタン

FEATHERを起動します。

⑧[閉じる]ボタン

FEATHERを起動します。

FEATHER オプション設定画面

ここでは、設定画面のボタンやメニューについて説明します。
設定画面は、[予約一覧]画面で[オプション]ボタンをクリック→[オプション設定]を選択すると表示されます。

■[予約録画]タブ



①オーバーレイ表示マージン

オーバーレイ表示開始までのマージンを設定します。ご使用の環境でオーバーレイの表示に失敗する場合、設定することをお勧めします。

②リトライ回数

録画が失敗した場合のリトライ回数を0～10回まで選択できます。
リトライした場合は、ファイルが分割されます。

③電源状態変更

録画予約後の電源状態変更までの待機時間を10～60秒まで選択できます。

■[番組情報]タブ



①インターネット番組情報のURL

iEPG番組予約に使用する番組表があるURLを入力します。プルダウンリストには、デフォルトの設定が登録されていますので、リストから選択することもできます。
[ブラウザで表示]ボタンをクリックすると、指定したURLを表示します。

②拡張子の関連付け

チェックを入れるとスケジュールに関連付けが行われ、iEPG機能が使用できるようになります。iEPG機能を使用する場合は、必ずチェックしてください。



デフォルト設定に含まれていない番組表を入力した場合、番組表から提供される定義ファイルの拡張子を入力する画面が表示されます。

■[録画デバイス]タブ



①録画デバイス

当社製テレビチューナー製品を複数台ご使用の場合は、録画に使用する製品を選択します。

②初期化マージン

タスク起動時から初期化までのマージンを設定します。ご使用の環境で初期化に失敗する場合、設定することをお勧めします。

③外部入力割り当て

iEPG機能で予約した際、FEATHER2006でその放送局を受信していないときは、外部入力映像の録画に切り替えます。

■[優先順]タブ



①優先順の設定

当社製テレビチューナー製品を複数台ご使用の場合は、録画に使用する製品の優先順位を設定します。

②[上へ]/[下へ]ボタン

製品を選んでボタンを押すと、順番が変更されます。

③初期設定

優先順を初期設定に戻します。

■[アカウント情報]タブ



①ユーザー名

Windowsのユーザー名を入力します。

②パスワード

Windowsのユーザー名を入力します。

③パスワードの確認入力

②で入力したパスワードを再度入力します。

④[リセット]ボタン

設定内容を初期設定に戻します。

[録画スケジュール]画面

ここでは、[録画スケジュール]画面のボタンやメニューについて説明します。
[録画スケジュール]画面は、[予約一覧]画面で予約情報を選択し[編集]ボタンをクリックすると表示されます。

■[予約設定]タブ



①[コンピュータ]

録画に使用するコンピュータを選択します。

②[録画デバイス]

当社製テレビチューナー製品を複数台使用している場合は、録画に使用する製品を選択します。[録画デバイス設定]ボタンをクリックすると、優先順位を設定できます(94ページ参照)。

③[1回のみ]/[毎日] / [毎週]

今回の録画予約を、上記のいずれかのパターンで録画します。

③[開始日]

録画する日を指定します。毎日、もしくは毎週録画する場合は、開始する日を指定します。

④[開始時刻]/[終了時刻]/[録画時間]

録画の開始時刻と終了時刻を設定します。終了時刻と録画時間は連動していますので、一方を設定すると、もう一方も自動的に設定されます。

⑥[録画開始前の待機時間]

録画を開始する前にテレビチューナーが待機する時間を設定します。

⑦[録画マージン]

録画を開始する時刻よりも、ここで設定した時間分早く録画を開始します。同様に、録画を終了する時刻よりも、ここで設定した時間分遅く録画を終了します。

録画マージンを設定しておくことで、録画したい番組の最初から最後までを、安定した状態で録画できます。

■[録画設定]タブ



①[番組名]

番組名が表示されます。修正する場合は、直接番組名を入力します。

②[チャンネル]

録画するチャンネルが表示されます。修正する場合は、チャンネルを選択します。

③[ファイル名]

録画ファイル名が表示されます。修正する場合は直接入力します。さらに録画ファイル名について詳しく設定したい場合は[詳細設定]ボタンをクリックします。

④[録画可能時間]

ハードディスクの空き容量から録画できる時間を計算し、表示します。

⑤[登録カテゴリ]

MEDIA LIBRARYのカテゴリを選択します。録画したファイルは、選んだカテゴリに自動的に分類されます。

⑥[ファイルの保存期間設定]

録画ファイルの保存期間を設定します。保存期間を過ぎると、自動的にファイルが削除されます。自動的に削除しない場合は[自動削除しない]を選択します。

⑦録画形式

録画ファイル形式を選択します。お使いの製品によって選択できない形式があります。

⑧音声多重

音声出力形式を選択します。

⑨録画品質

録画品質を選択します。任意で細かく設定したい場合は[詳細設定]ボタンをクリックします。

⑩[録画中に映像を表示する]

チェックを入れると、録画中、画面に映像を表示します。パソコンに負荷がかかり、録画に不具合が出る場合はチェックをはずしてください。

■[その他]タブ



①録画予約情報

設定した録画予約の内容を表示します。誤りがあるときは、各タブをクリックし修正してください。

②[録画後の電源状態]

録画後のパソコンの電源状態を選択します。

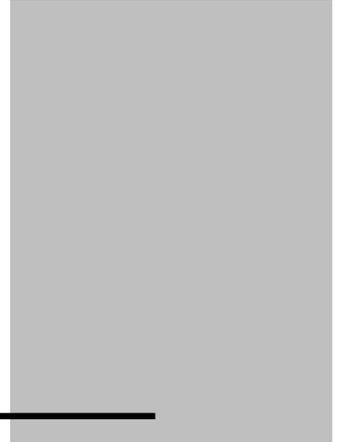
③[設定]ボタン

アカウント 情報を表示します。



第 6 章

付録



6-1 各設定項目をもっと詳しく

■ ビデオ

マニュアル設定時のビデオの各項目の詳細内容について説明します。

ビデオビットレート

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、1秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、8で割ってください。例えば8,000,000bps(=8Mbps)と指定すると、1秒あたり8Mビット、すなわち1Mバイトですから、1分間の録画には1Mバイト×60秒=60Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります(オーディオも同時に記録する場合は、そのデータ量も加算する必要があります)。

データ量と画質のバランスから、適切であろうと考えられるおおよその目安は、以下の通りです。

● 画像サイズが720×480の場合

6~12Mbpsが適切です。4Mbpsでは少し画質が悪いと感じられ、8Mbps以上にしても、画質にそれほど大きな変化はありません。15MbpsがMPEG2(MP@ML)の規格上の上限値です。

● 画像サイズが352×240の場合

MPEG2をこの画像サイズで使用する場合は、2~3Mbpsくらいが適切です。さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、352×480を使用してください。

● 画像サイズが352×480の場合

3~4Mbpsが適切です。
さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、720×480を使用してください。



ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

固定ビットレート、可変ビットレート

固定ビットレート (CBR) はビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます (CBR: Constant Bit Rate)。可変ビットレート (VBR) はビデオのデータ量が変動します (VBR: Variable Bit Rate)。MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮しにくい、という性質があります。固定ビットレートでは、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮しようとするので、そのような場面の画質が他の場面に比べて低下します。可変ビットレートはそれを緩和するため、そのような場面では圧縮結果のデータ量が平均より多くなるようにし、その代わりに他の場面でのデータ量を平均より少なくすることで、トータルのデータ量を増やさずに、各場面の画質をできるだけ均一に保つように考えられた方式です。そのため可変ビットレートの場合は、ビットレート (目標とする平均のビットレート) と、最大ビットレート (データ量が多くなった部分でも、これを越えない上限値) の2つを設定できるようになっています。



ご使用の製品によって、ビットレートの設定項目は異なります。

GOPパターン (IBBP、I Frame)

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、すべてのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。したがって、それまでの画像がなければ、次の画像を構成することができません。ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくとも、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これをIピクチャと呼びます。これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。IBBPを選択すると、上記のしくみを利用して、データ量を少なくしつつ、画質を保つようになります。通常MPEGは、この方式で記録されています。通常は、IBBPを選択してください。ただし、IBBPは、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。I frameは、すべてのフレームをIピクチャとして記録します (I frame only) ので、編集が容易にできます。I frame only のMPEGファイルを編集できるソフトウェアをご使用になる場合は、I frameを選択してください。ただし、I frameは、同程度の画質を維持するためにはIBBPに比べてデータ量を大きくすることが必要になります。I frameを選択すると、最大ビットレートは25Mbpsまで設定できます。

GOPオプション

Closed GOP

Iピクチャ以外の各ピクチャは、時間的に前後のピクチャの内容も利用して圧縮を行います(GOPパターンの項参照)。したがって、編集のために、圧縮データを途中で切り離して他の部分のデータに接続することができません。この事は、GOPの境界部分についても同じです。GOPの先頭はIピクチャですが、その後のPピクチャとの間にあるBピクチャは、通常はそのGOPの一つ前の最終のPピクチャを参照します。

Closed GOPにチェックすると、そのような場合、Bピクチャは前方に対する参照を行わないようになります。すなわち、GOP内で情報が完結することになり、GOPの境界でデータを切り離しても、原理上、映像の再現は可能になります。ただし、圧縮効率は低下します。

通常は、チェックマークを外してご使用してください。

Closed GOP構造のMPEGファイルをGOP単位で編集ができるようなソフトウェアをご使用になる場合に使用してください。

画像サイズ

ビデオをエンコードする際の1画面を構成するピクセル数です。

720×480は、フルサイズです。

704×480は、民生用プレイヤーで使用されているサイズです。

352×480は、一般にHalf-D1と呼ばれているピクセルサイズです。

352×240は、一般にSIFと呼ばれているピクセルサイズです。



ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

■ オーディオ

マニュアル設定時のオーディオの各項目の詳細内容について説明します。

サンプリングレート

オーディオ信号の標準化周波数を指定します。44.1kHz(44100Hz)、48kHz(48000Hz)から選択できます。44.1kHzはオーディオCDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。ビデオがMPEG 2の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。

ビットレート (オーディオ)

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。

形式

MPEG1 Layer-2

MPEGオーディオのレイヤ2規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

Linear PCM

非圧縮のリニアPCMデータを2チャンネル記録します。

チャンネル

ステレオ

LチャンネルとRチャンネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。

通常の音楽などの信号は、LチャンネルとRチャンネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャンネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

デュアル

LチャンネルとRチャンネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャンネルに全く別の音を記録する場合などにご使用ください。

モノラル

1チャンネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。



6-2 索引

C

CiRAgent 8

D

DVD再生の設定 78

F

FEATHER設定 37

M

MEDIA LIBRARY 16

MPEG Information File Creator 36

MPEG情報ファイル 34

MPEGマツハサーチ 34

P

PC画面設定 41, 53

Photo印刷設定 83

W

W3D設定 40, 47, 52

E

エンコード設定 (DivX) 70

エンコードの設定 60

O

オーバーレイカラー調整 (PC画面出力) 53

音声設定 39, 79

音量の設定 80

カ

外部入力の自動録画 42

画面サイズ (ウィンドウ) 41

監視フォルダ 21

コ

ゴースト低減機能 52

コピーワンス信号 82

シ

受信周波数の微調整 52

ス

スキップボタン設定 86

タ

タイムシフトのしくみ 59

タイムシフトの設定 58

チ

チャンネル 39

チャンネル設定 (FEATHER) 2

チャンネル設定 (CiRAgent) 8

ト

トラブルシューティング 85、86

ニ

入力カラー調整 (Sビデオ) 48

入力カラー調整 (チューナー) 51

入力カラー調整 (ビデオ) 46

入力切替 39

ネ

ネットワーク設定 84

ハ

バージョン情報 45

ヒ

ビデオプロセッシング 40

表示位置 56

標準モード（タイムシフト） 59

フ

ファイル拡張子 82

ファイル関連付け 82

ファイル再生 42, 55

プリアンファシス 64

フリッピング 55

プログレッシブ再生 55

ホ

保存先の設定 57

メ

メディア管理ツール 26

メニューリスト 38

モ

モード選択 42

モニター 41

ロ

録画モード（タイムシフト） 59

録画予約 89

録画予約の修正 88